

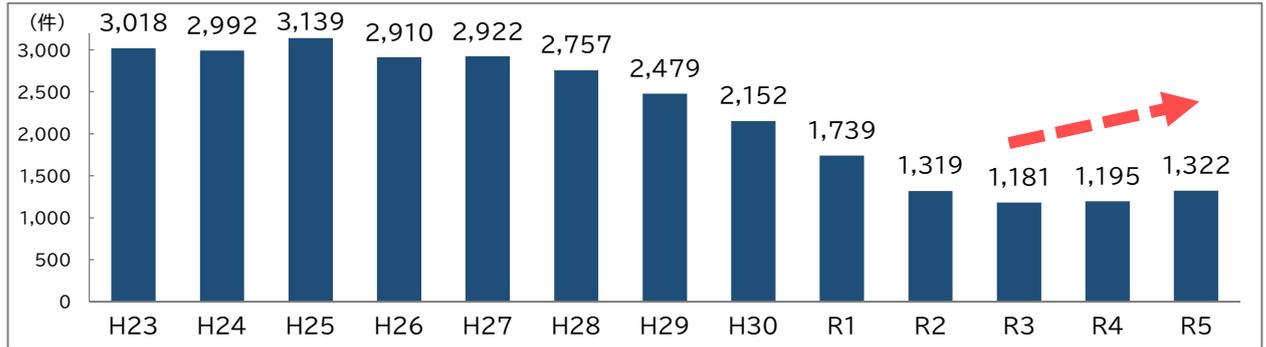
5 交通事故に関する状況 (警察統計)

(1) 久留米市の交通事故発生状況

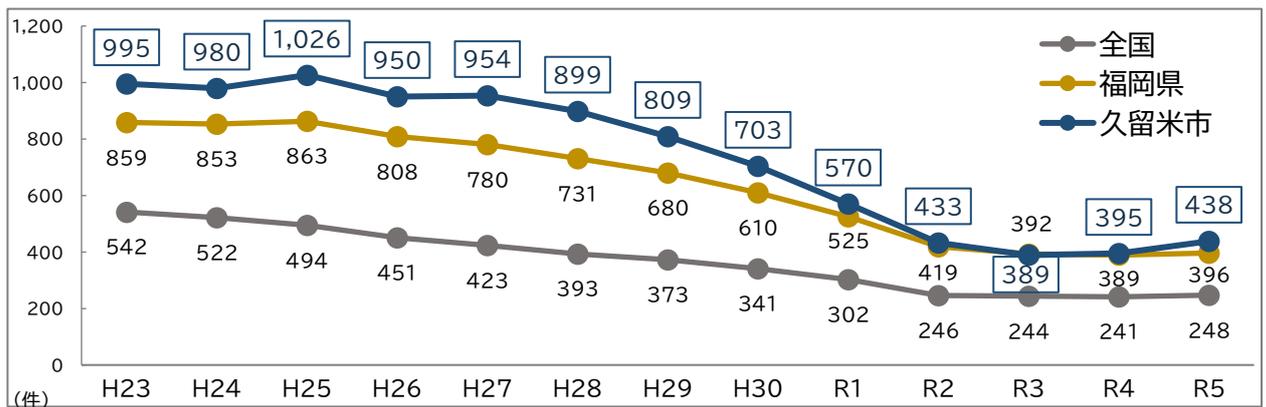
コロナ禍で急減した交通事故発生件数は、令和4年以降増加傾向にある。[図5-1]

また、縮小していた人口10万人当たりの交通事故発生件数の福岡県や国との差は、令和4年以降拡大している。[図5-2]

■[図5-1]久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図5-2]人口10万人当たりの交通事故発生件数の比較(久留米市、福岡県、全国)

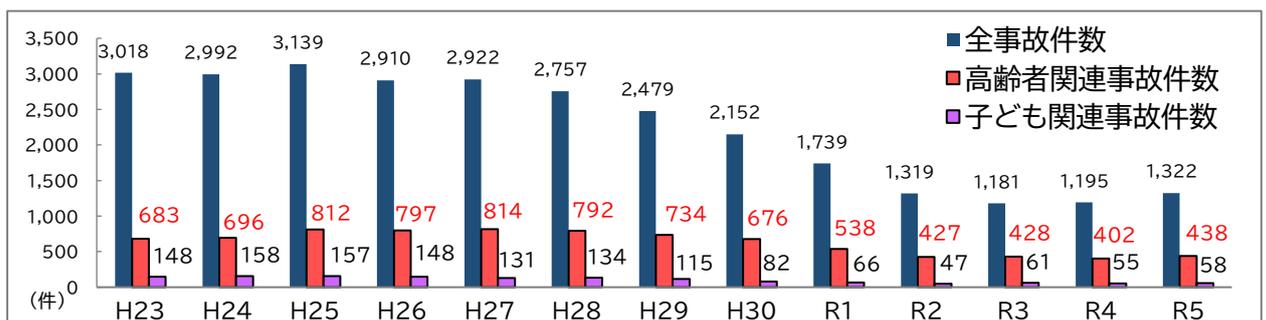


(2) 高齢者関連事故について

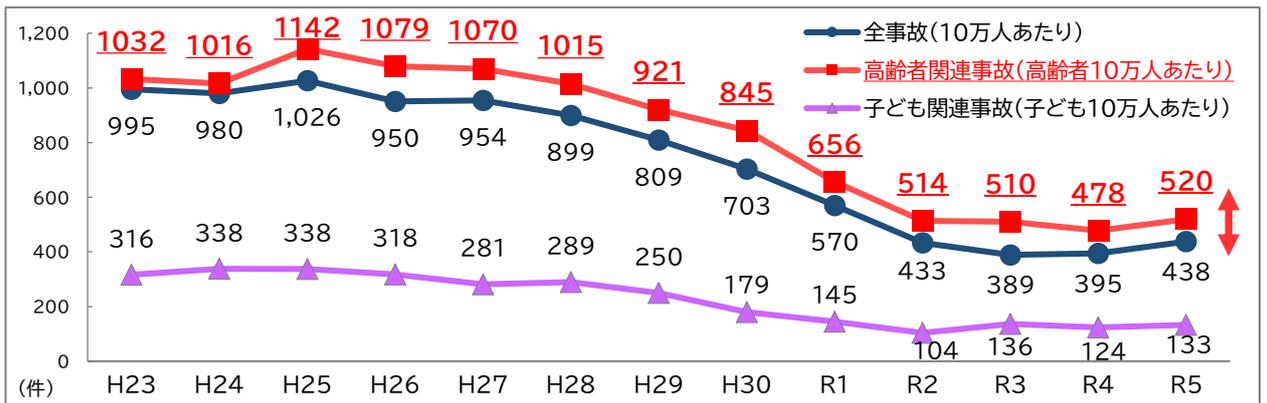
高齢者が関わる交通事故件数は減少傾向にあるが、各年齢層の人口比で見ると高齢者関連事故件数は、久留米市全体の交通事故発生件数を上回っている。[図5-4]

人口10万人当たり的高齢者関連交通事故の件数は、福岡県の値を上回っている。[図5-5]

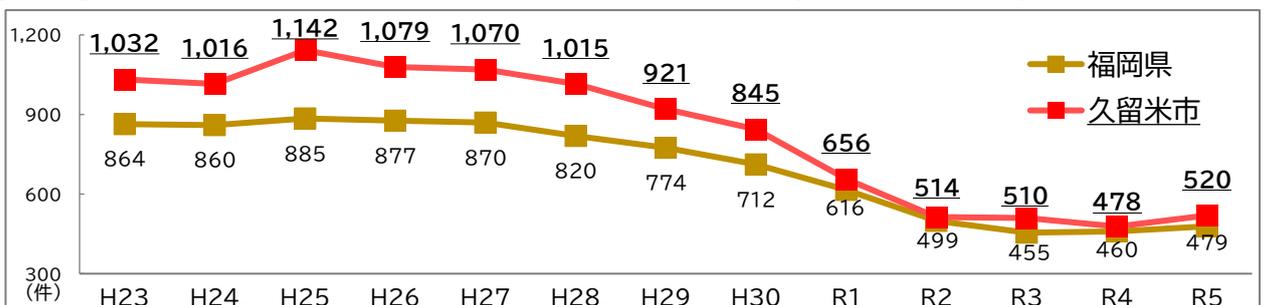
■[図5-3]年齢層毎の久留米市の交通事故発生件数の推移



■[図 5-4]年齢層毎の人口 10 万人当たりの久留米市の交通事故発生件数の推移



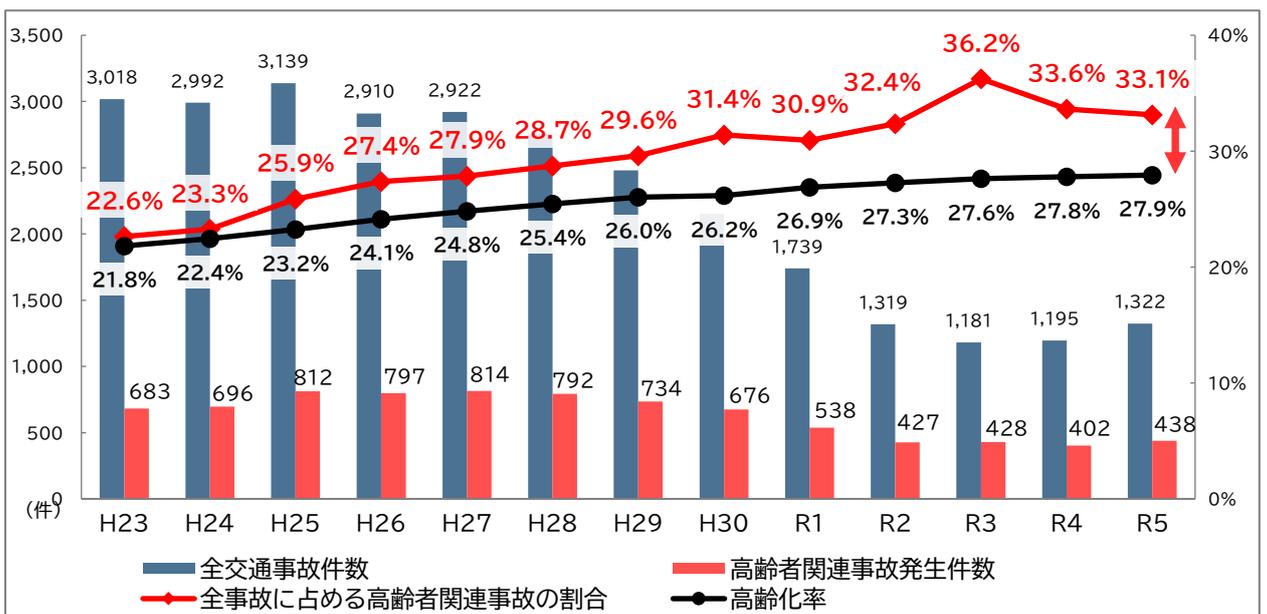
■[図 5-5]高齢者人口 10 万人当たりの高齢者関連事故件数の比較 (久留米市、福岡県)



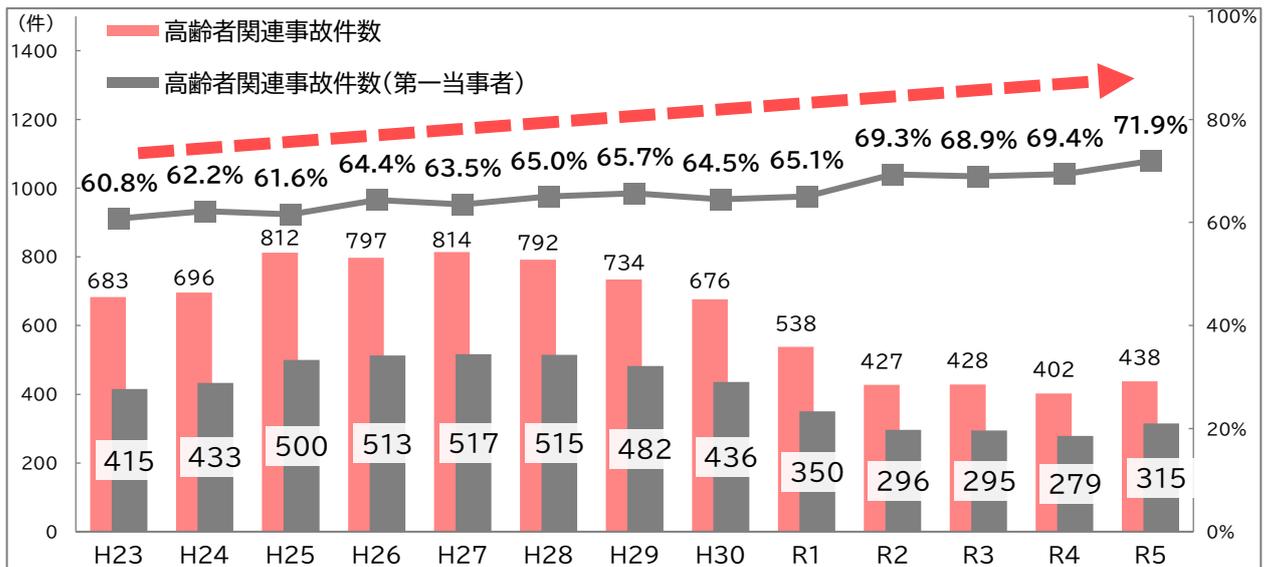
コロナ禍で発生件数は減少していたが、全事故に占める高齢者関連事故の割合はコロナ禍前より増加しており、久留米市の高齢化率を上回っている。[図 5-6]

また、高齢者関連事故に占める高齢者が加害者（第一当事者）となる交通事故の割合は増加傾向にある。[図 5-7]

■[図 5-6]高齢者関連事故の発生件数、及び全事故に占める割合

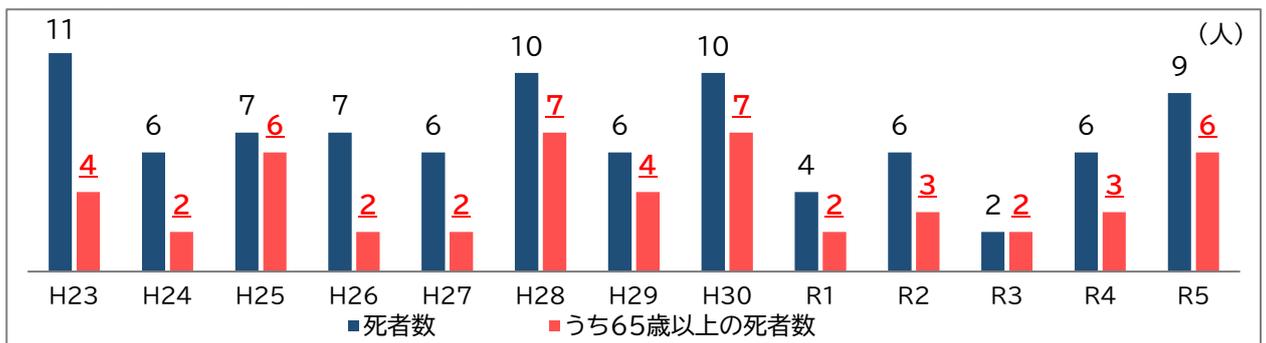


■[図 5-7]高齢者が加害者（第一当事者）の事故の件数、及び高齢者関連事故に占める高齢者が加害者となる事故の割合

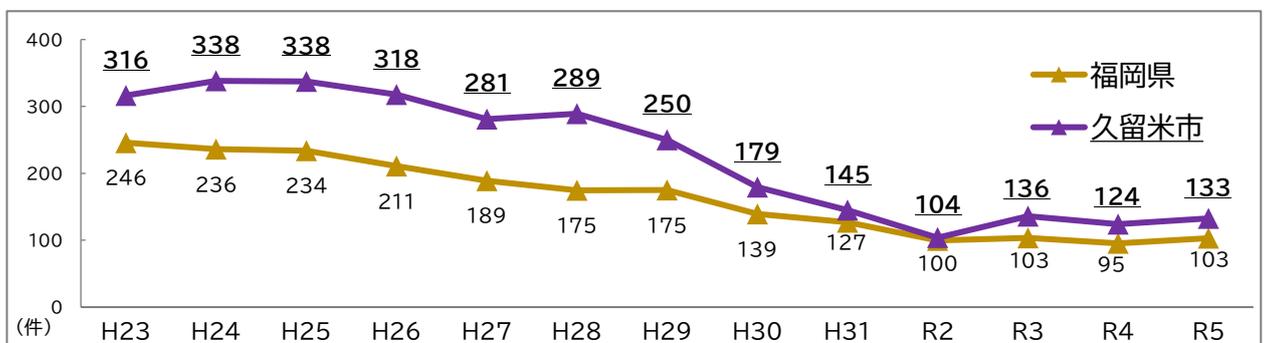


久留米市内の交通事故による死者の半数以上が高齢者である。

■[図 5-8]久留米市の交通事故による死者数



【参考】[図 5-9]子どもの人口 10 万人当たりの子ども関連の事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）

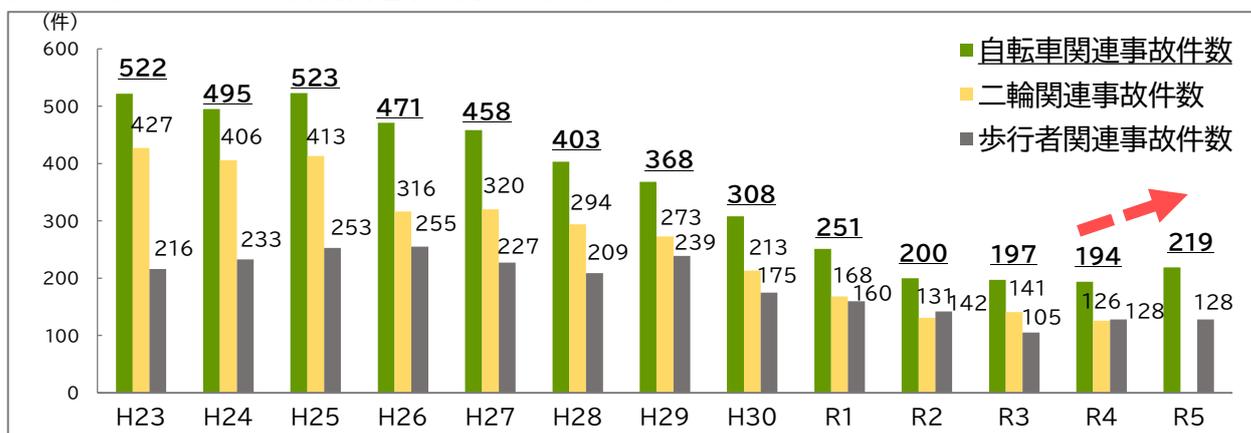


(3) 自転車関連事故について

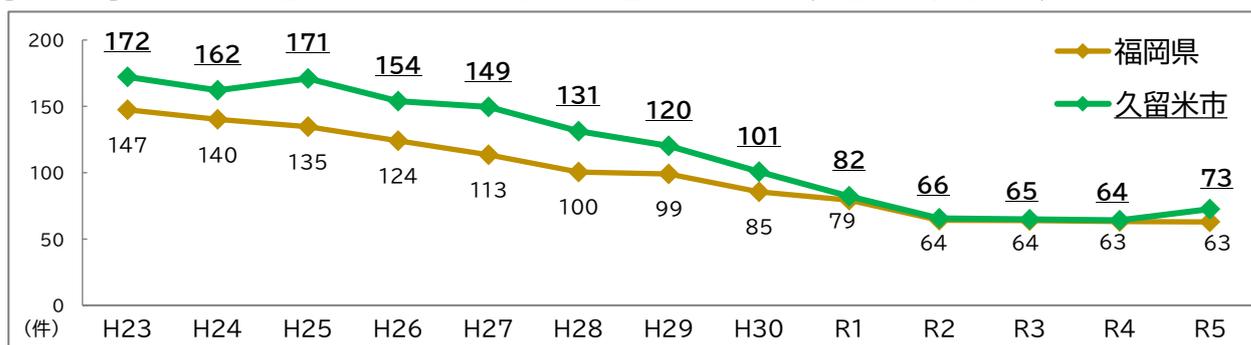
自転車関連事故件数は減少傾向にあったが、令和5年は前年より増加した。[図 5-10]

県と同水準だった人口10万当たりの自転車事故発生件数についても、令和5年には差が拡大した。[図 5-11]

■[図 5-10]久留米市の車両別交通事故発生件数等の推移



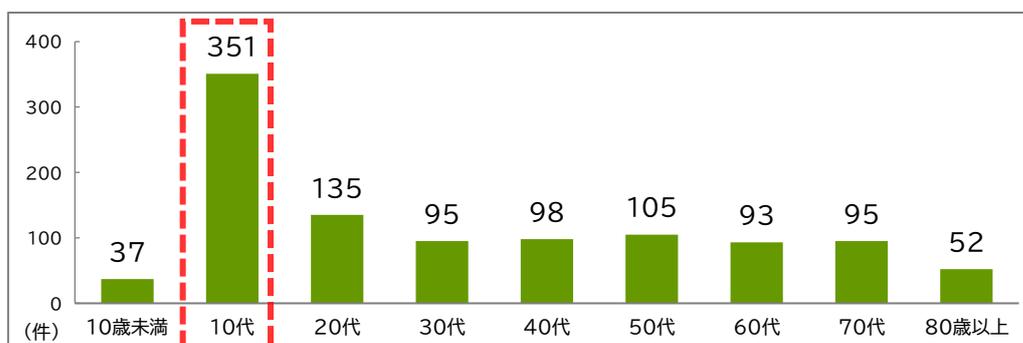
■[図 5-11]人口10万人当たりの自転車関連事故発生件数の比較（久留米市、福岡県）



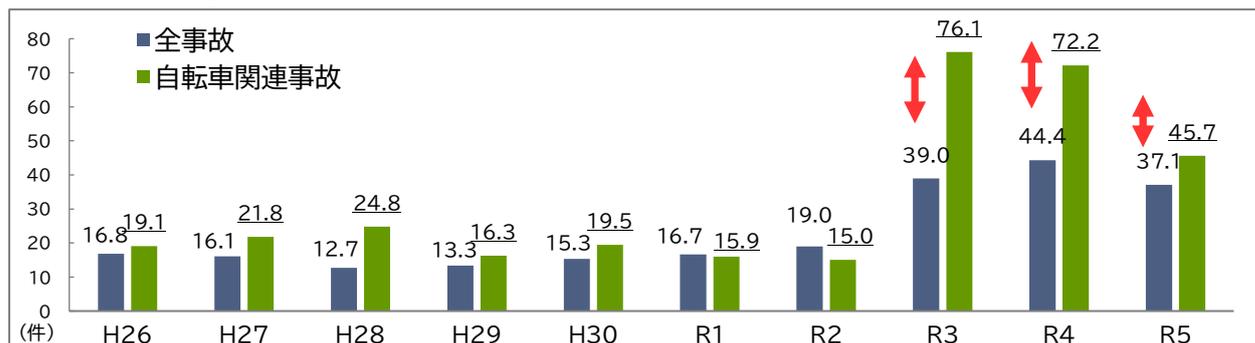
年齢別にみると、自転車関連事故は10代の事故件数が突出して多い。[図 5-12]

また、死亡や重傷に繋がる交通事故は、事故全体に比べ自転車関連事故の方が高い状況である。[図 5-13]

■[図 5-12]年齢層毎の自転車関連事故発生件数（R1～R5年の累計）



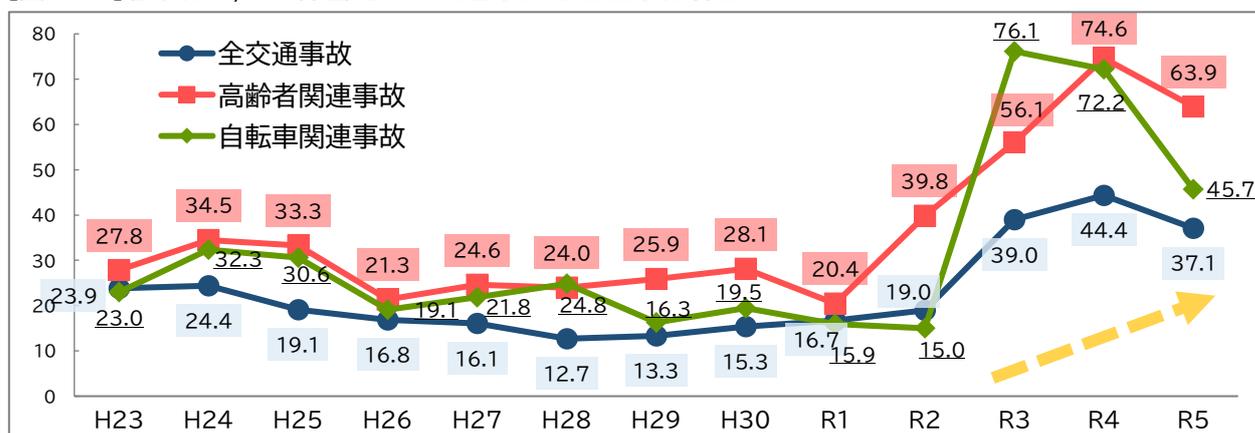
■[図 5-13]事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数の比較



(4) 近年の事故の傾向

令和3年以降、死亡や重傷となる事故に繋がりがやすくなっている。

■[図 5-14]各事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数



6 犯罪に関する状況 (警察統計)

重点分野:犯罪暴力の予防

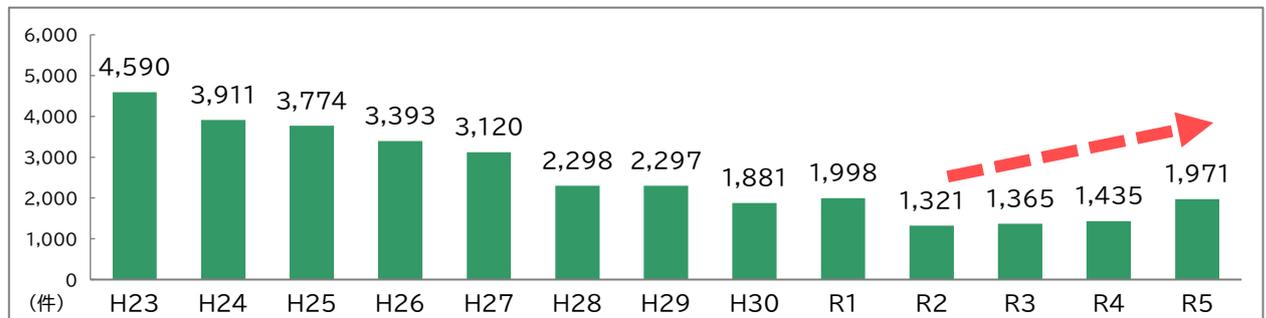
(1) 一般刑法犯認知件数

一般刑法犯：刑法犯から、交通事故によって人を死傷させて過失犯を除いたもの

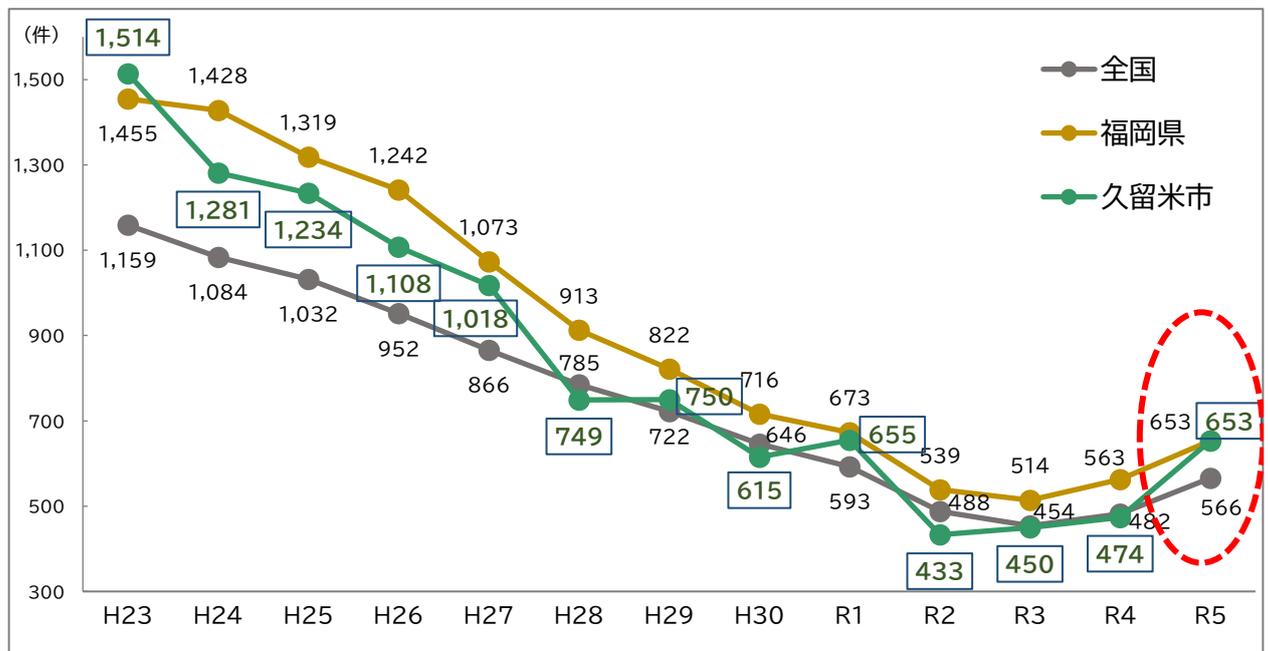
一般刑法犯の認知件数は減少傾向にあったが令和3年以降増加傾向に転じ、令和5年にはコロナ禍前とほぼ変わらない件数まで増加した。[図6-1]

また、令和2年に国や県の値を下回った人口10万人当たりの件数は、令和5年には国の値を上回り県と同水準にまで増加している。[図6-2]

■[図6-1]久留米市の一般刑法犯認知件数の推移



■[図6-2]人口10万人当たりの一般刑法犯認知件数の比較 (久留米市、福岡県、全国)

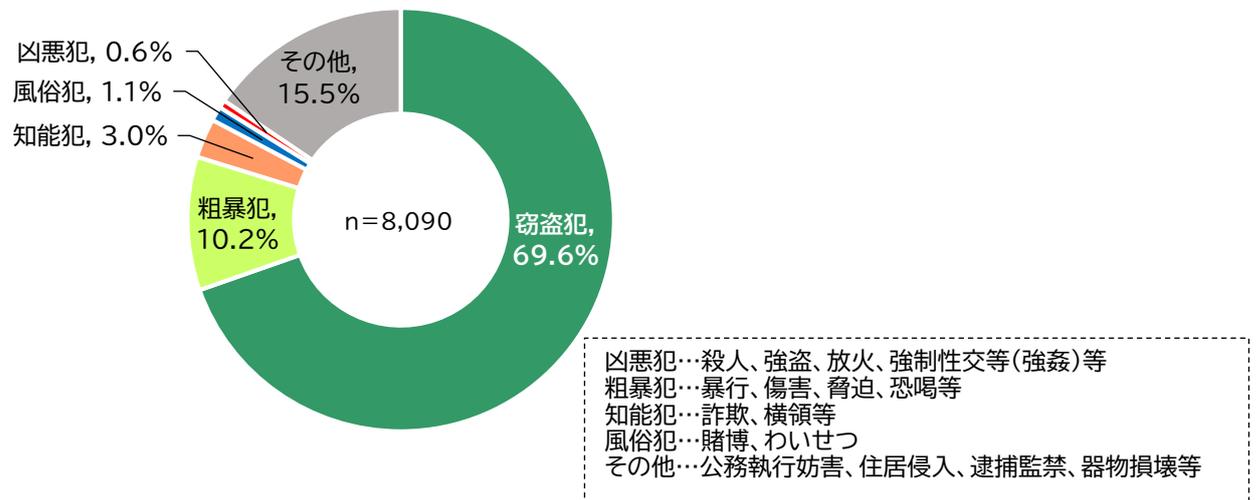


(2) 犯罪種別の件数

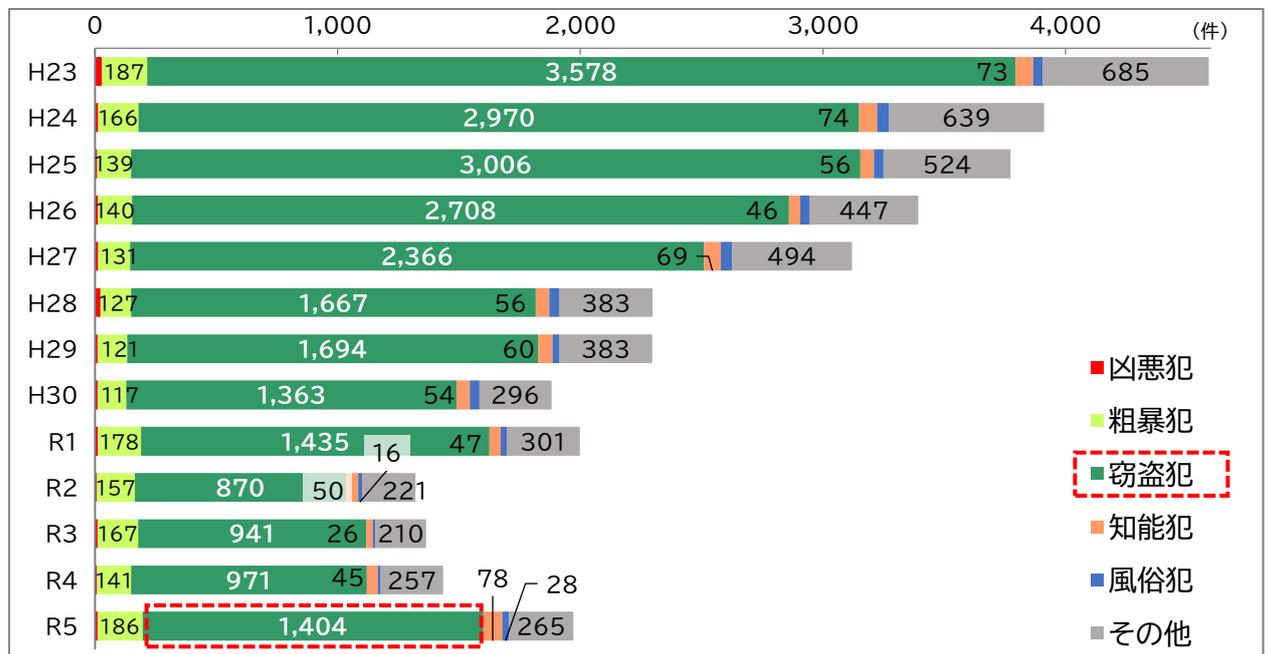
一般刑法犯認知件数の約7割が窃盗犯である。[図6-4]

令和2年以降いずれも増加傾向にあるが、特に窃盗犯の件数が大幅に増加している。[図6-4]

■[図6-3]久留米市の一般刑法犯認知件数の犯罪種別毎の割合 (R1~R5年)



■[図6-4]犯罪種別の久留米市の一般刑法犯認知件数の推移



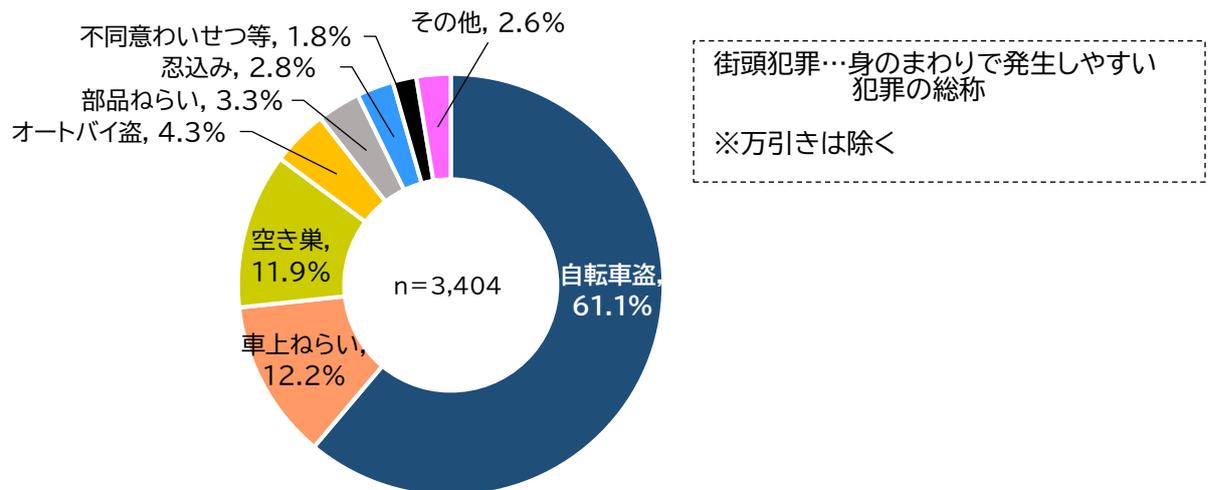
(3) 街頭犯罪の認知件数

街頭犯罪の中では、自転車盗の件数が最も多い。[図 6-5]

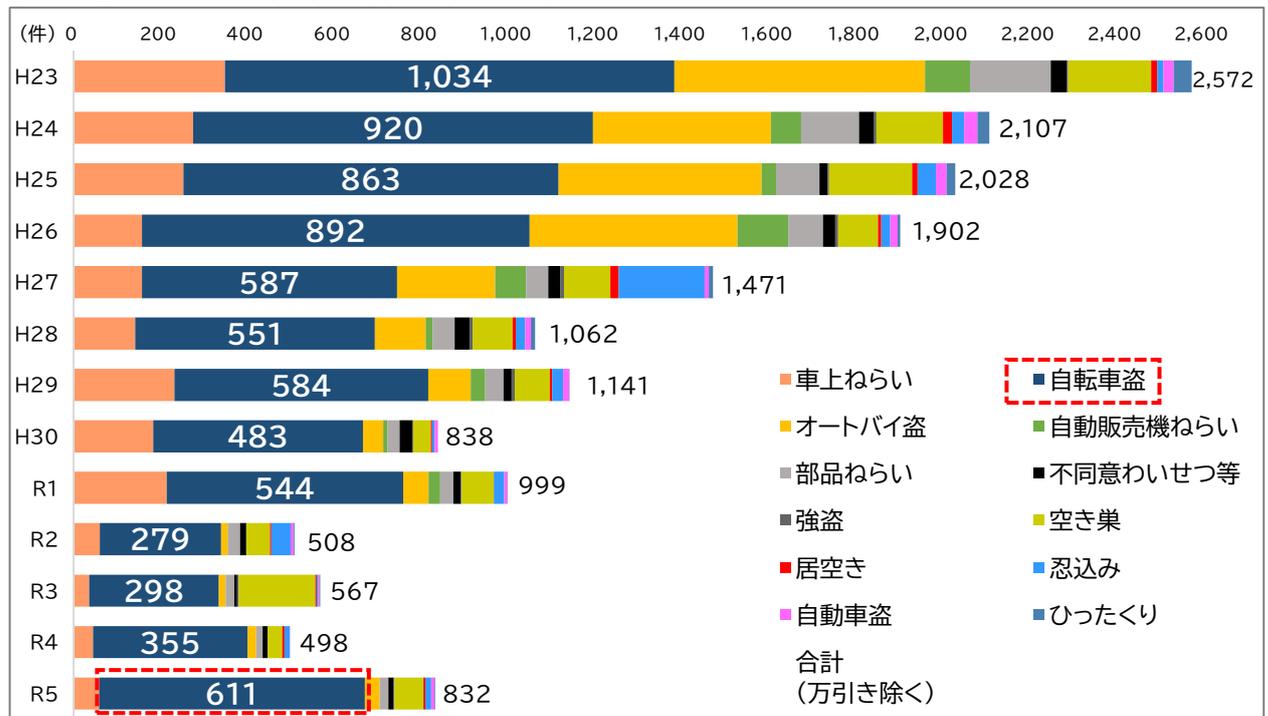
街頭犯罪の件数は令和 2 年まで減少傾向にあったが近年は増加しており、特に自転車盗の件数が大幅に上昇している。[図 6-6]

人口 10 万人当たりの街頭犯罪認知件数は福岡県と同水準だが、令和 4 年から 5 年にかけての増加率は県の値を上回っている。[図 6-7]

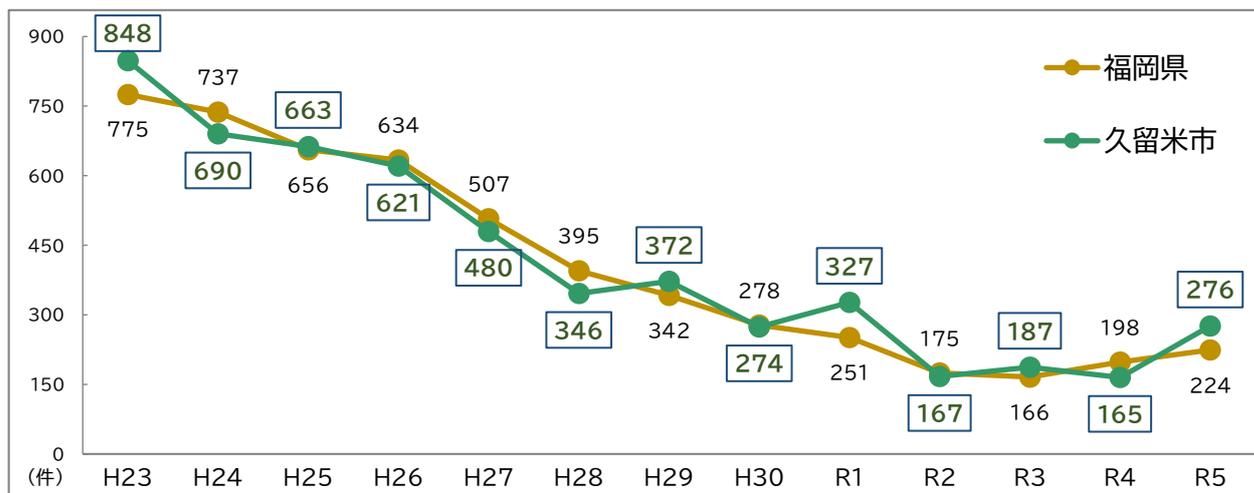
■[図 6-5]久留米市の街頭犯罪認知件数の犯罪種別毎の割合 (R1~R5 年)



■[図 6-6]久留米市の街頭犯罪認知件数の推移



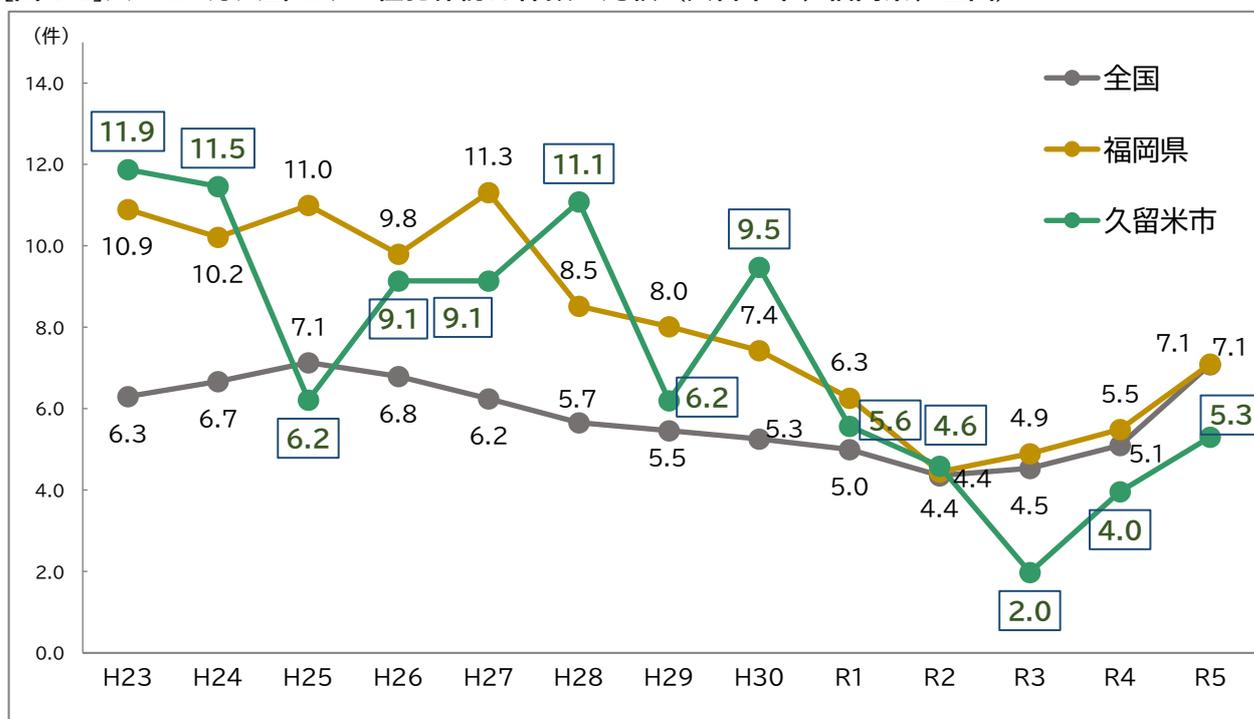
■[図 6-7]人口 10 万人当たりの街頭犯罪認知件数の比較（久留米市、福岡県）



(4) 性犯犯罪の認知件数 ※不同意性交等と不同意わいせつの認知件数の合計

人口 10 万人あたりの性犯罪の認知件数は、全国と福岡県の値を下回っているが、令和 3 年以降増加傾向にある。[図 6-8]

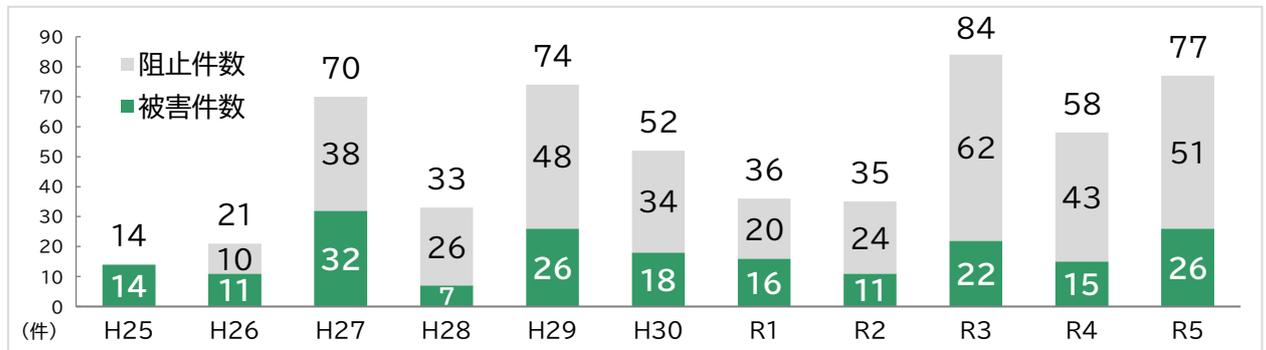
■[図 6-8]人口 10 万人当たりの性犯罪認知件数の比較（久留米市、福岡県、全国）



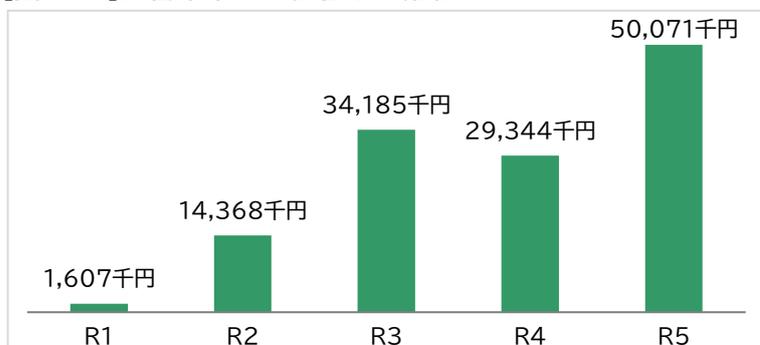
(5) ニセ電話詐欺の被害件数。

令和3年以降、ニセ電話詐欺の被害件数は増加傾向にある。

■[図 6-9]久留米市のニセ電話詐欺の被害件数と阻止件数



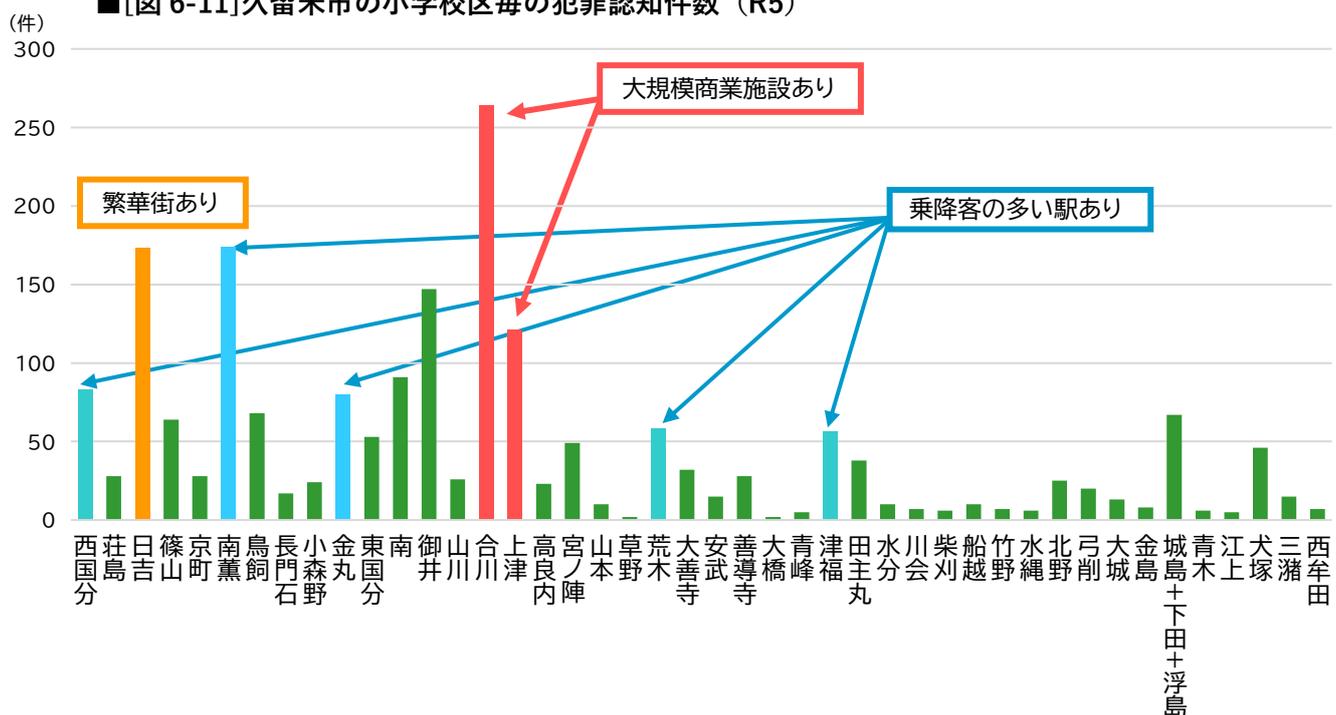
■[図 6-10]久留米市内の被害額の推移



(6) 小学校区別の犯罪認知件数

繁華街、大規模商業施設、乗降客の多い駅が所在する校区の件数が多い

■[図 6-11]久留米市の小学校区毎の犯罪認知件数 (R5)



■[図 6-12]小学校区別の犯罪認知件数の比較 (H23 と R5)

校区名	H23	R5	差	増減率
西国分	248	83	▲ 165	▲ 66.5%
莊島	65	28	▲ 37	▲ 56.9%
日吉	323	173	▲ 150	▲ 46.4%
篠山	98	64	▲ 34	▲ 34.7%
京町	67	28	▲ 39	▲ 58.2%
南薫	262	174	▲ 88	▲ 33.6%
鳥飼	145	68	▲ 77	▲ 53.1%
長門石	87	17	▲ 70	▲ 80.5%
小森野	54	24	▲ 30	▲ 55.6%
金丸	324	80	▲ 244	▲ 75.3%
東国分	185	53	▲ 132	▲ 71.4%
南	212	91	▲ 121	▲ 57.1%
御井	240	147	▲ 93	▲ 38.8%
山川	78	26	▲ 52	▲ 66.7%
合川	506	264	▲ 242	▲ 47.8%
上津	312	121	▲ 191	▲ 61.2%
高良内	83	23	▲ 60	▲ 72.3%
宮ノ陣	100	49	▲ 51	▲ 51.0%
山本	25	10	▲ 15	▲ 60.0%
草野	13	2	▲ 11	▲ 84.6%
荒木	193	58	▲ 135	▲ 69.9%
大善寺	190	32	▲ 158	▲ 83.2%
安武	64	15	▲ 49	▲ 76.6%
善導寺	82	28	▲ 54	▲ 65.9%
大橋	15	2	▲ 13	▲ 86.7%
青峰	38	5	▲ 33	▲ 86.8%
津福	184	56	▲ 128	▲ 69.6%
田主丸	44	38	▲ 6	▲ 13.6%
水分	14	10	▲ 4	▲ 28.6%
川会	13	7	▲ 6	▲ 46.2%
柴刈	8	6	▲ 2	▲ 25.0%
船越	13	10	▲ 3	▲ 23.1%
竹野	10	7	▲ 3	▲ 30.0%
水縄	9	6	▲ 3	▲ 33.3%
北野	41	25	▲ 16	▲ 39.0%
弓削	24	20	▲ 4	▲ 16.7%
大城	16	13	▲ 3	▲ 18.8%
金島	13	8	▲ 5	▲ 38.5%
城島+下田+浮島	75	67	▲ 8	▲ 10.7%
青木	15	6	▲ 9	▲ 60.0%
江上	22	5	▲ 17	▲ 77.3%
犬塚	38	46	▲ 8	▲ 21.1%
三瀨	53	15	▲ 38	▲ 71.7%
西牟田	12	7	▲ 5	▲ 41.7%
計	4,613	2,017	▲ 2596	▲ 56.3%

※H23年とR5年の列の黄色のセルは、上位5校区

※増減率の列の黄色のセルは減少率が低い3校区、赤文字は増減率が高い3校区

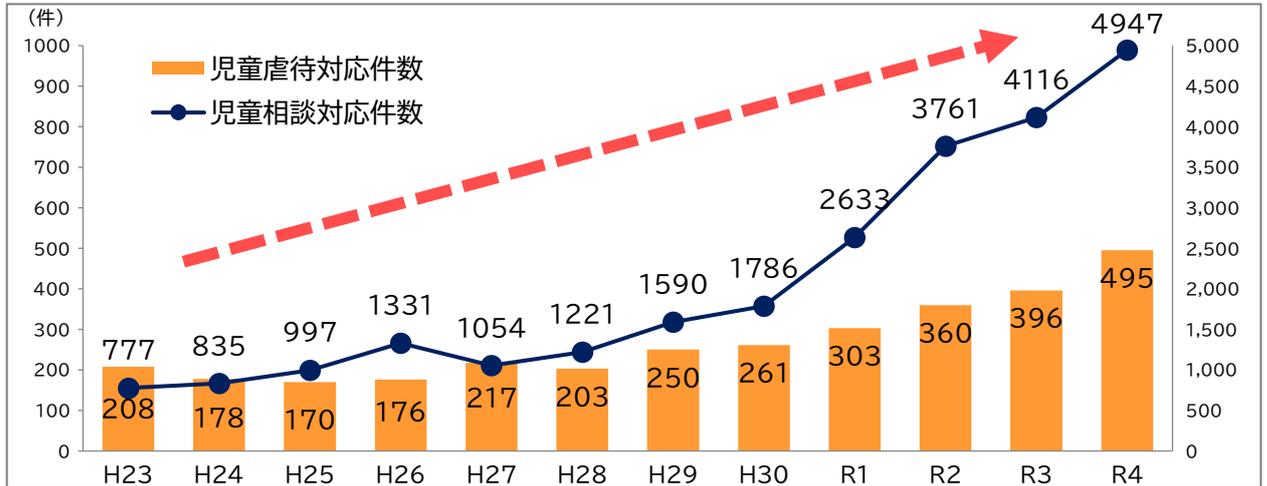
7 児童相談に関する状況 (家庭子ども相談課集計)

重点分野:子どもの安全

(1) 児童相談件数の推移

児童相談、児童虐待対応件数ともに増加傾向にある。

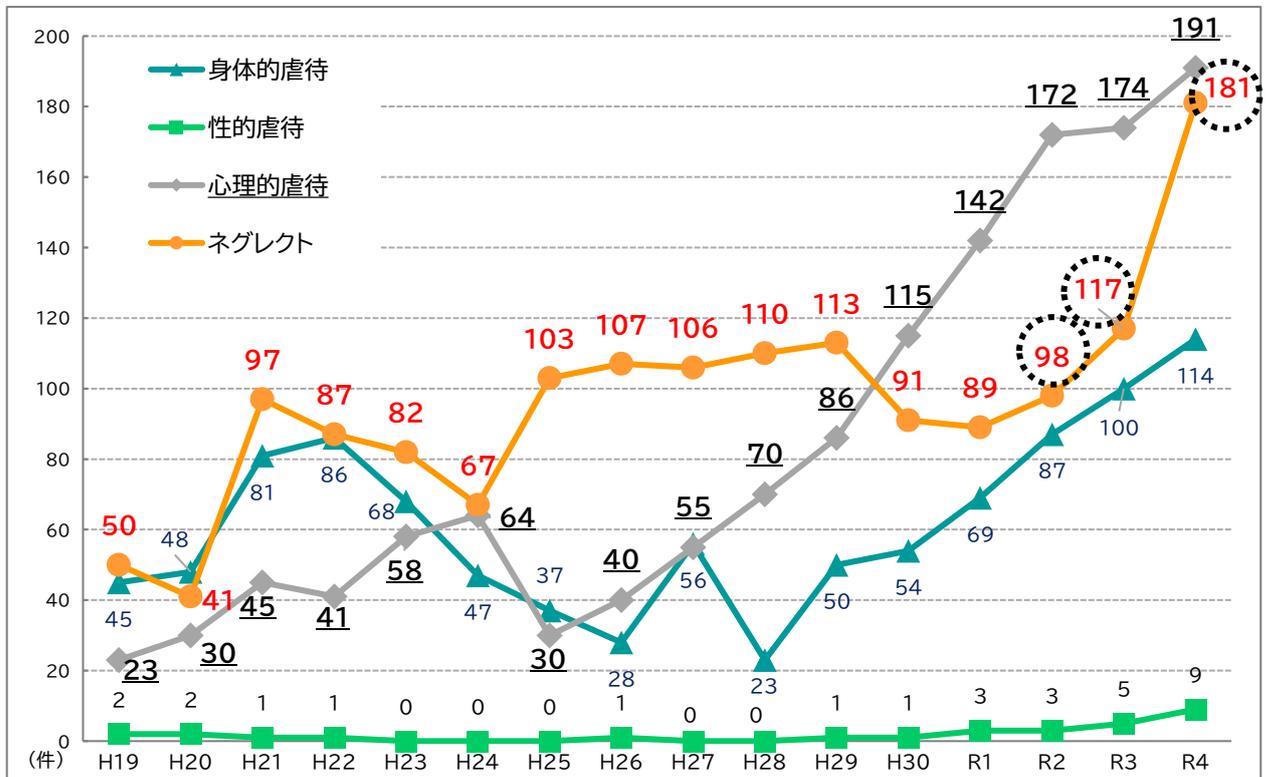
■[図 7-1]児童虐待対応件数及び児童相談対応件数の推移



(2) 虐待の種類別件数

コロナ禍以降。ネグレクトの件数が急増している。

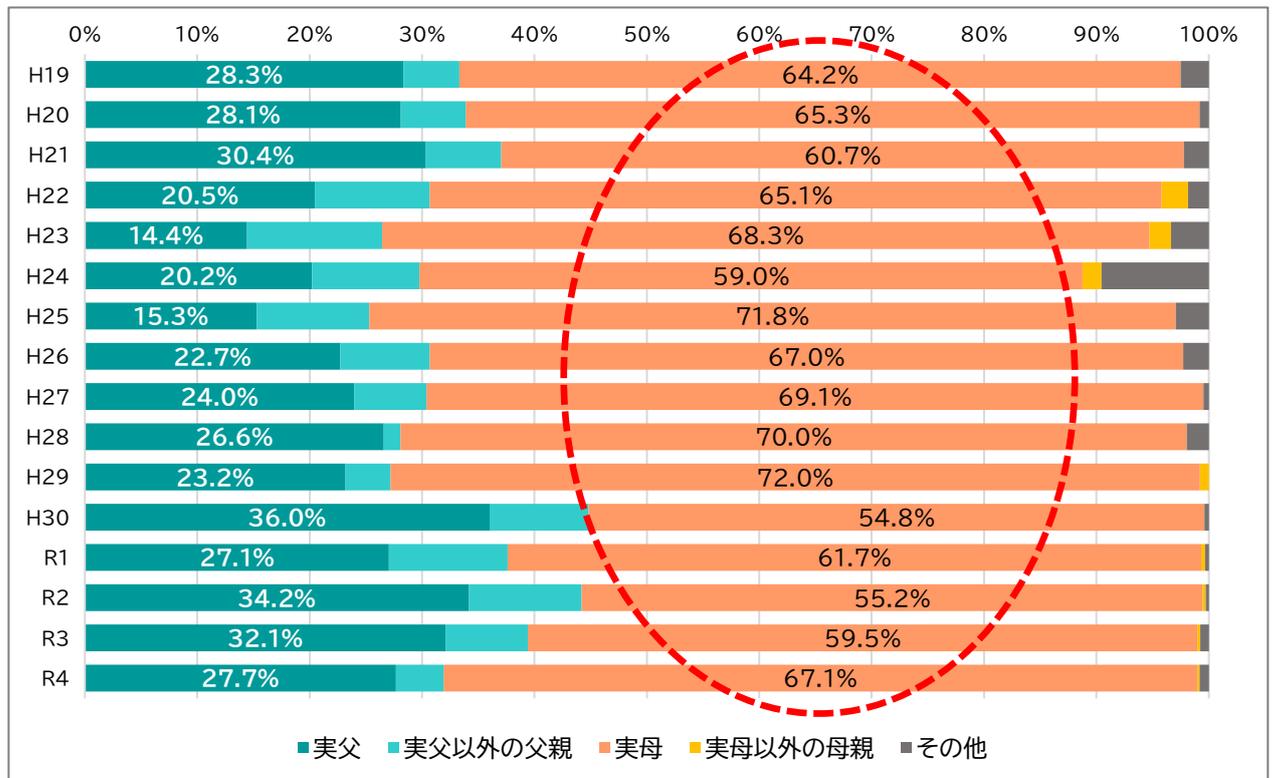
■[図 7-2]虐待の種類別の児童虐待対応件数の推移



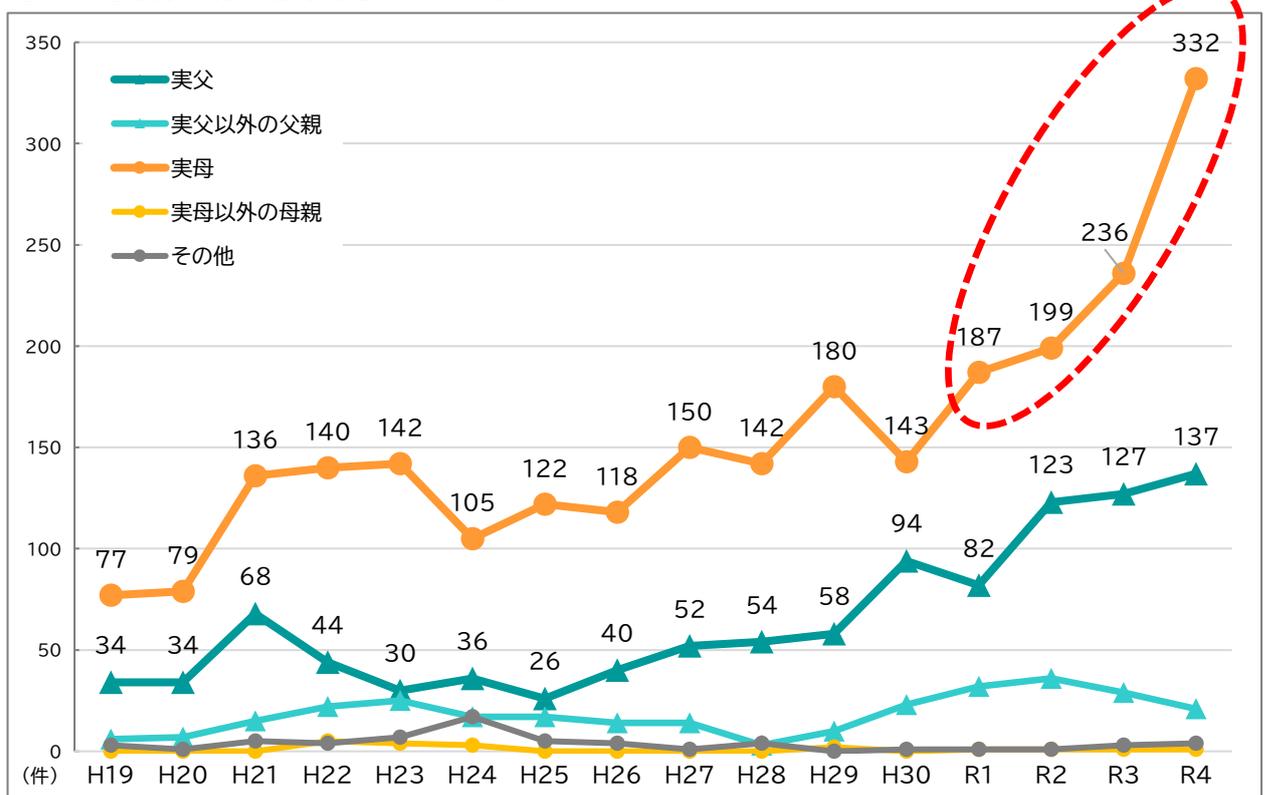
(3) 虐待者別割合

虐待者の約6割が実母によるものである。また、近年その件数が急増している。

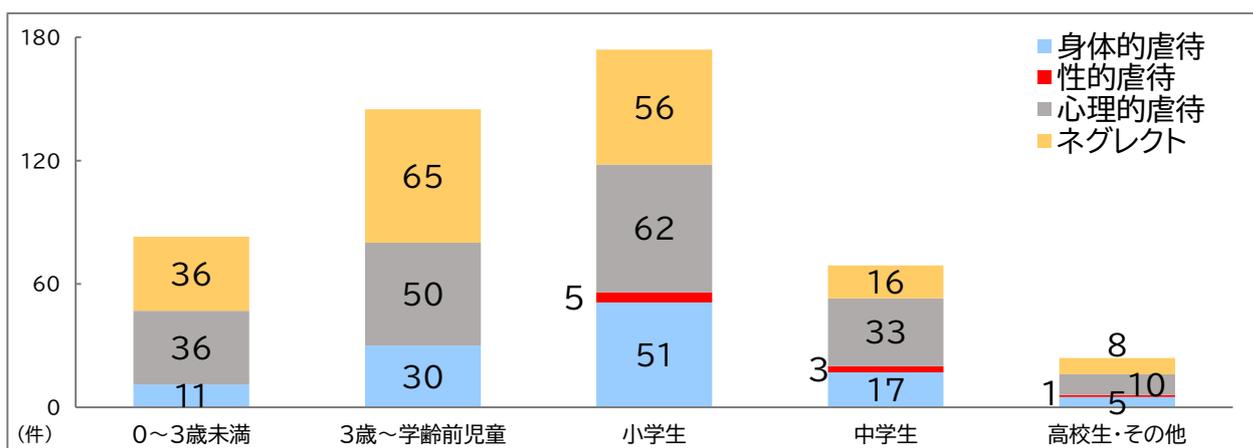
■[図7-3]児童虐待対応件数のうち、虐待者別の割合



■[図7-4]虐待者別の虐待対応件数の推移

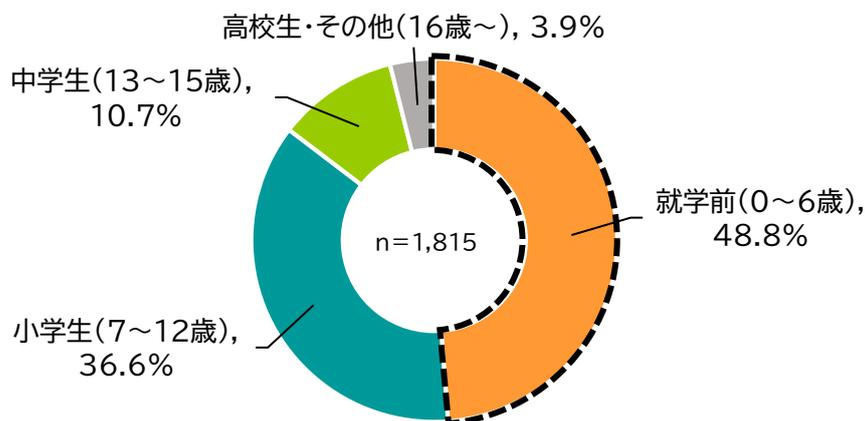


(4) [図 7-5]児童虐待の種類別・年齢別対応件数 (R4)



(5) [図 7-6]児童虐待対応件数の年齢別割合 (H30-R4 の5年間)

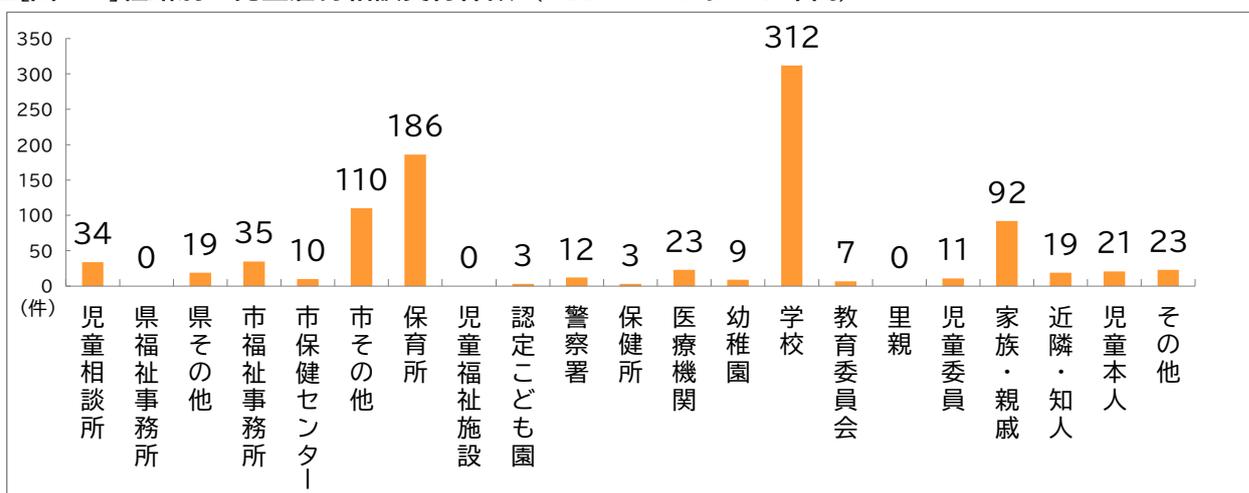
就学前の乳幼児に対する虐待が約半数を占めている。



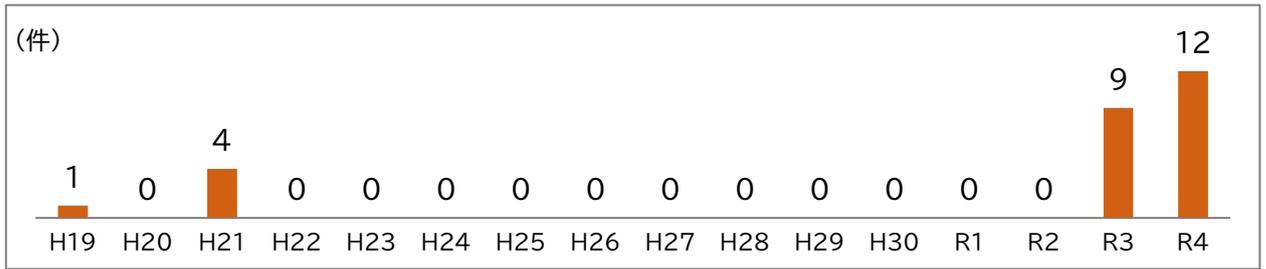
(6) 経路別の虐待相談受付件数

虐待相談の新規受付件数を経路別にみると、学校や保育所からの相談が多く、子ども自身からの相談は少ないが、R3年から少しずつ増加している。

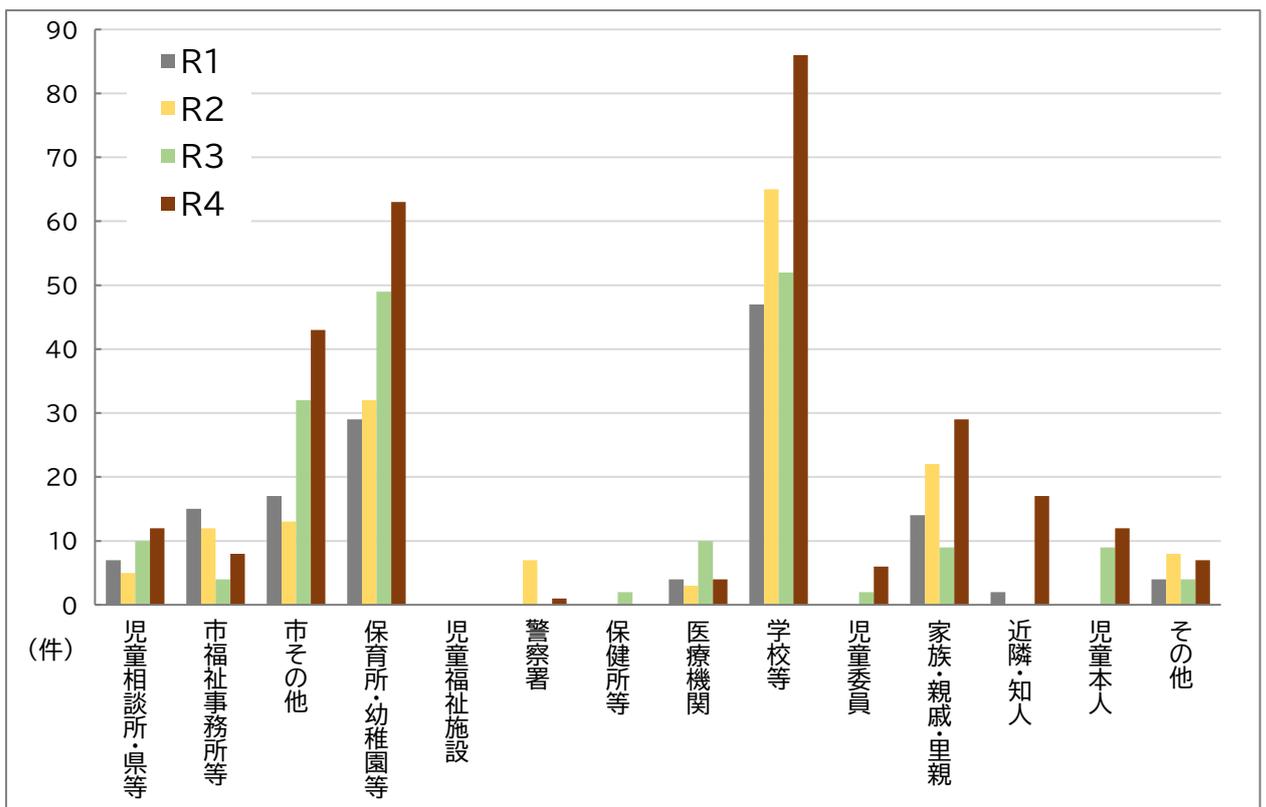
■ [図 7-7]経路別の児童虐待相談受付件数 (H30~R4 からの5年間)



■[図 7-8]児童本人からの虐待相談受付件数の推移



■[図 7-9]経路別の児童虐待相談受付件数の推移 (R1、R2、R3、R4)



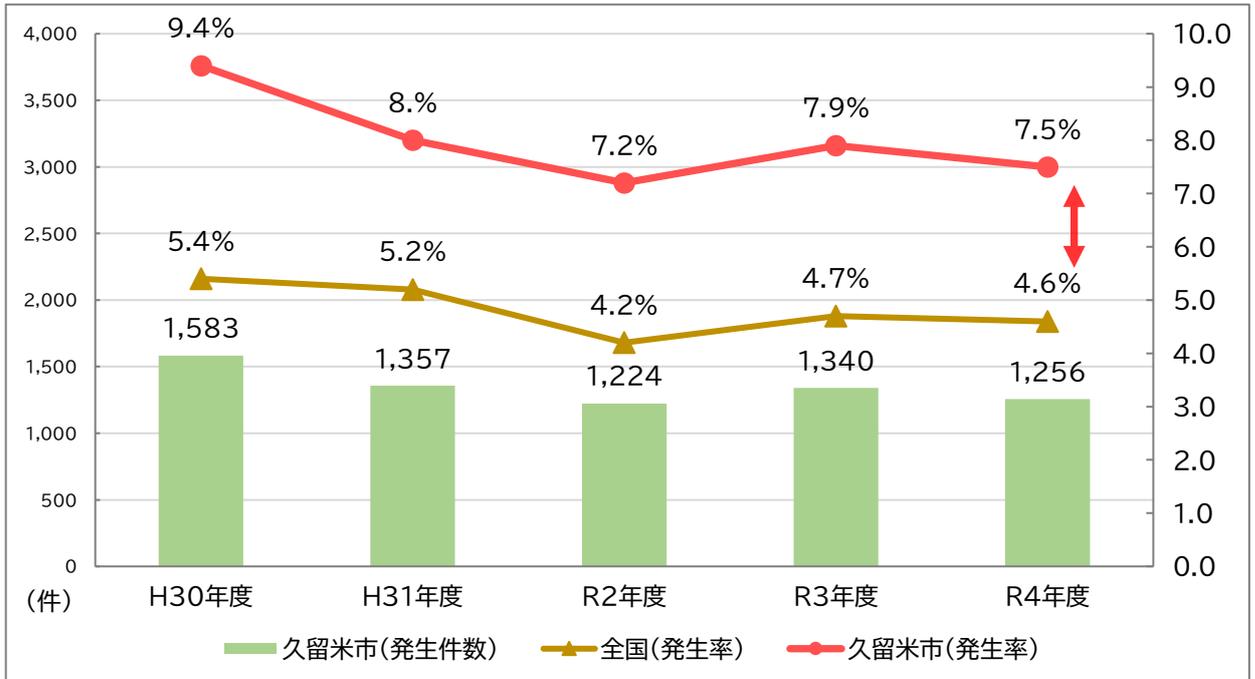
8 児童のけが等に関する状況

重点分野:子どもの安全

(日本スポーツ振興センター災害給付データ、久留米市教育委員会等統計等)

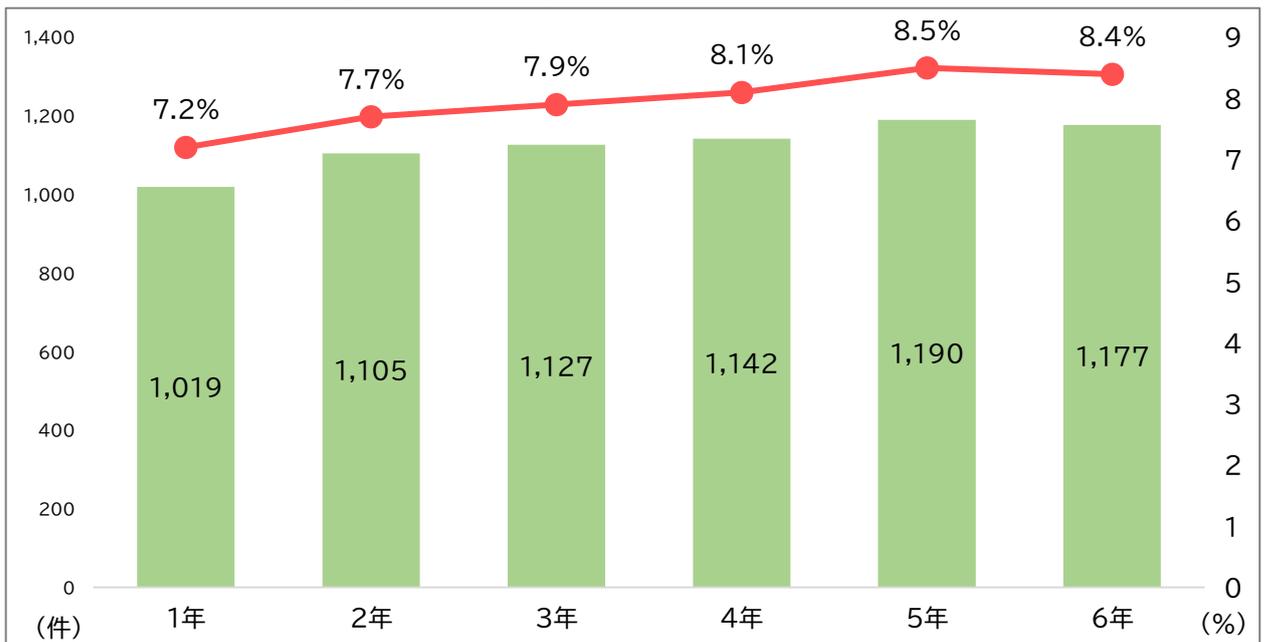
(1) [図 8-1]小学校におけるけがの発生件数と発生率（けがの発生件数／児童数）

市内の小学校での児童のけがの発生件数、及び発生率は減少傾向にあるが、けがの発生率は全国の値を上回っている。



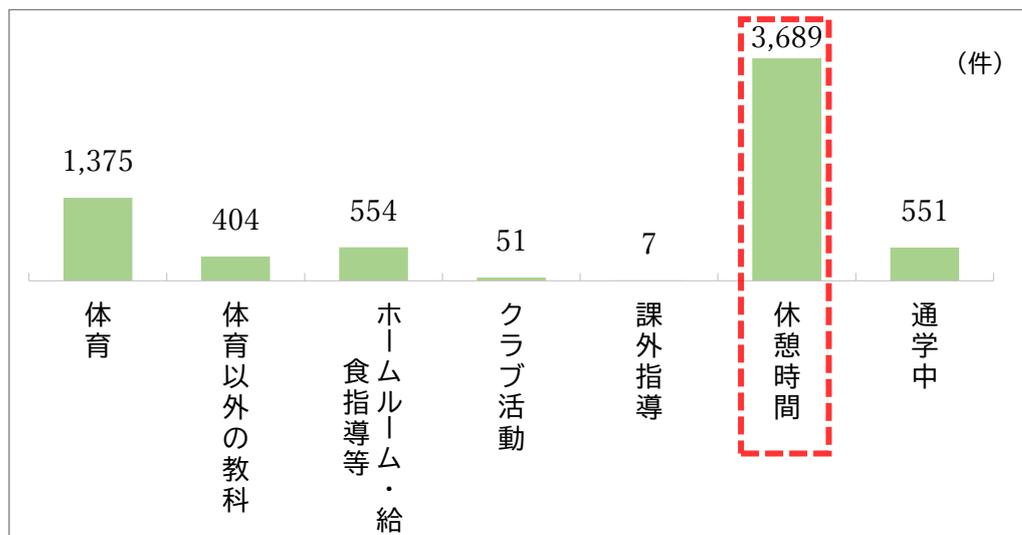
(2) [図 8-2]小学校における学年別のけがの発生件数と発生率（H30～R4 累計）

学年が上がると、けがの発生件数、及び発生率は増加する。



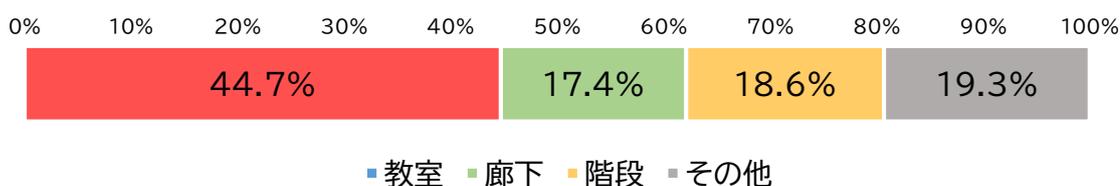
(3) [図 8-3]小学校におけるけが発生時の状況 (H30～R4 年合計)

体育の授業を除くと、けがのほとんどは休憩時間に発生している。

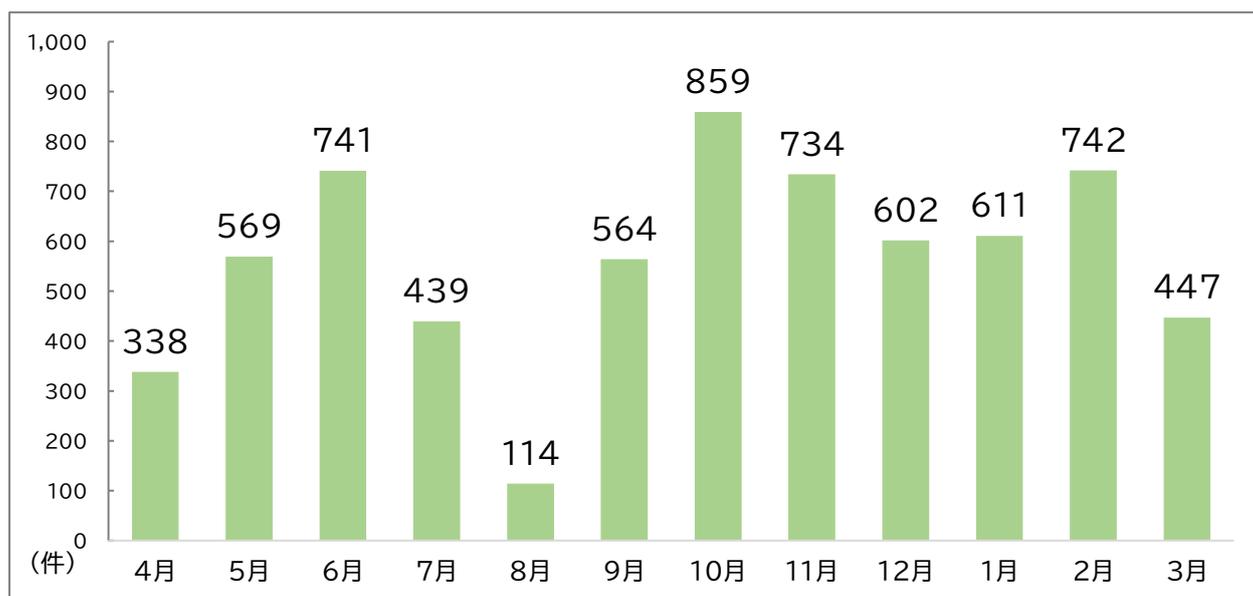


(4) [図 8-4]校舎内における小学校の休憩時間中のけがの発生場所の割合 (H30～R4 合計)

休憩時間のけがの多くは、教室で発生している。



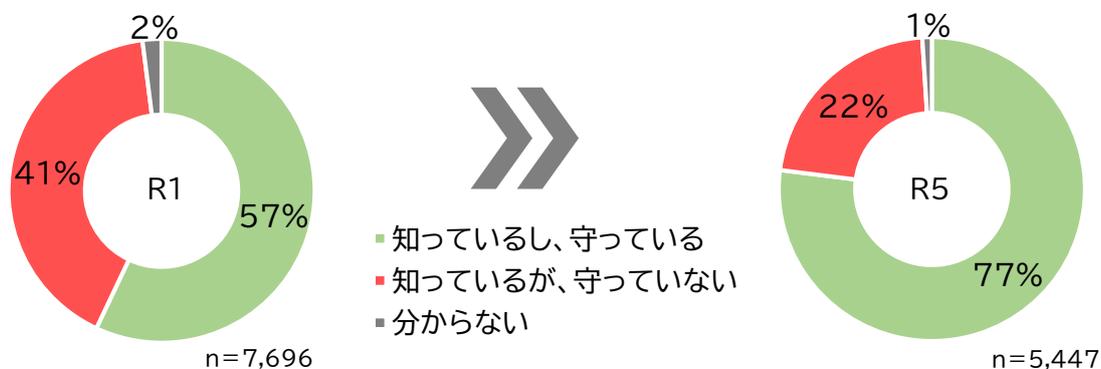
(5) [図 8-5]小学校における月別のけが発生件数 (H30～R4 合計)



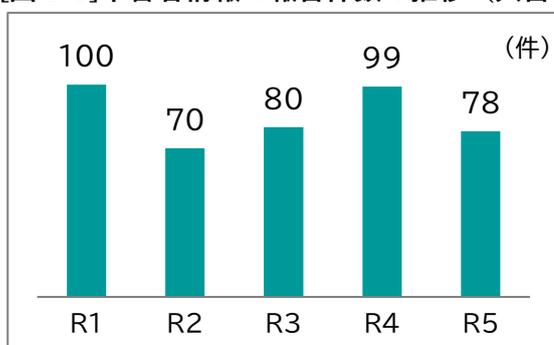
(6) 児童の意識 (あんぜんアンケート)

■ [図 8-6] 校舎内で安全に過ごすためのルールを守っているかとの質問への回答

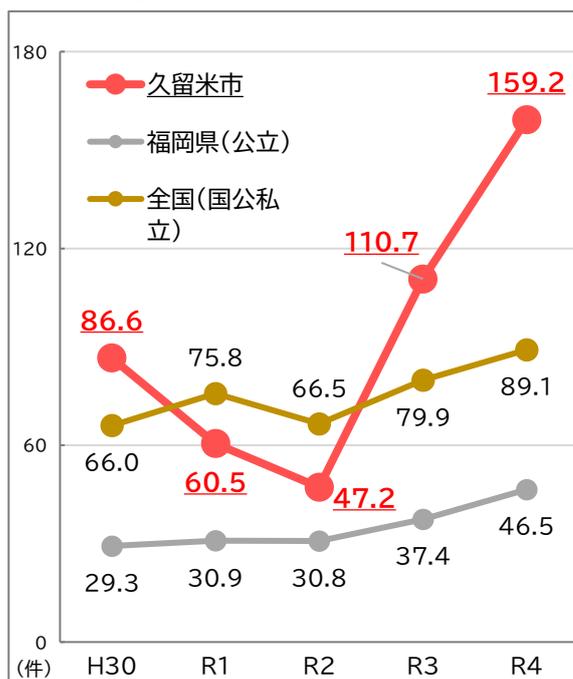
令和元年から令和5年にかけて、「知っているし、守っている」と答えた割合は増加している。しかし、5人に1人は「知っているが、守っていない」と答えている。



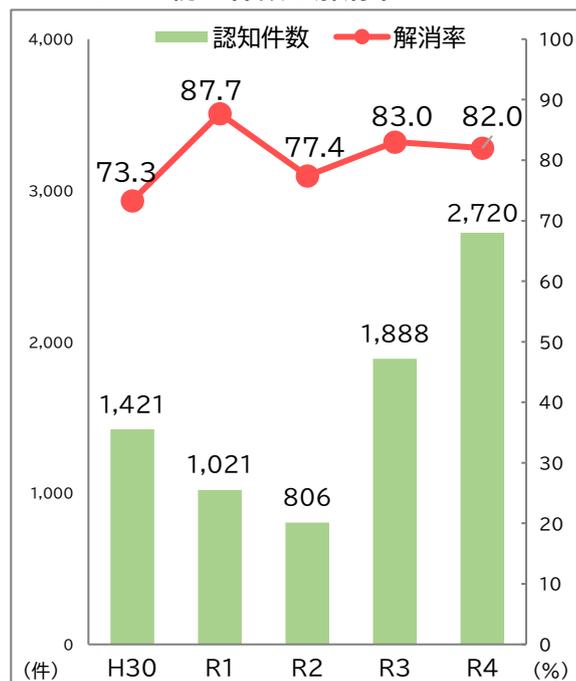
(7) [図 8-8] 不審者情報の報告件数の推移 (久留米市学校教育課統計)



(8) [図 8-9] 児童 1,000 人あたりの小学校のいじめの認知件数



(9) [図 8-10] 久留米市の小学校におけるいじめの認知件数と解消率

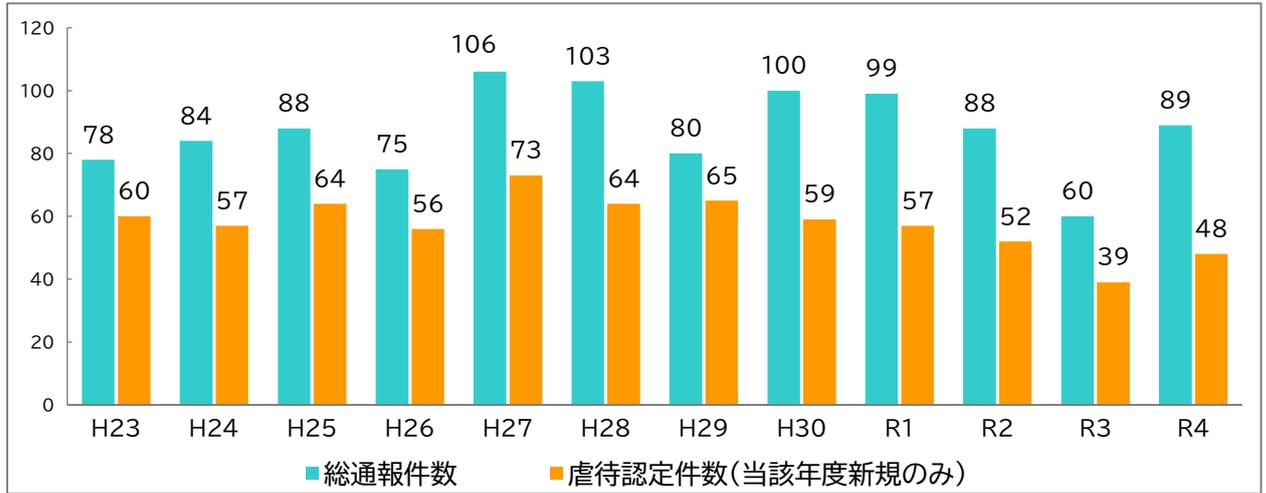


9 高齢者虐待に関する状況 (長寿支援課集計)

重点分野:高齢者の安全

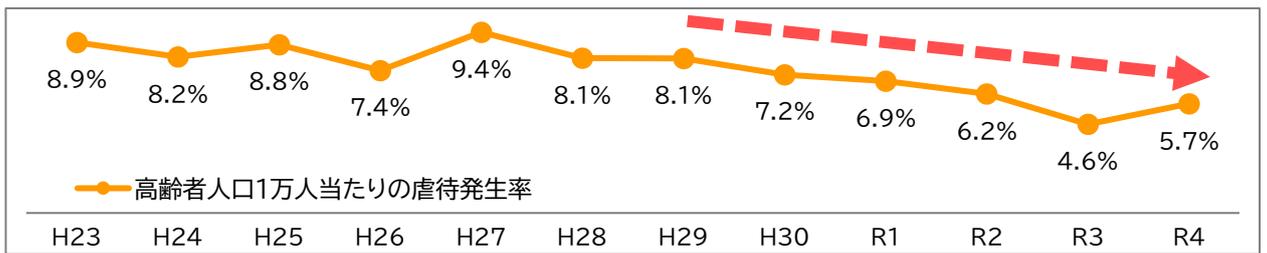
(1) [図 9-1] 高齢者虐待に関する相談件数と認定件数

近年、虐待認定件数は減少傾向にあったが、令和4年度は前年に比べ増加している。



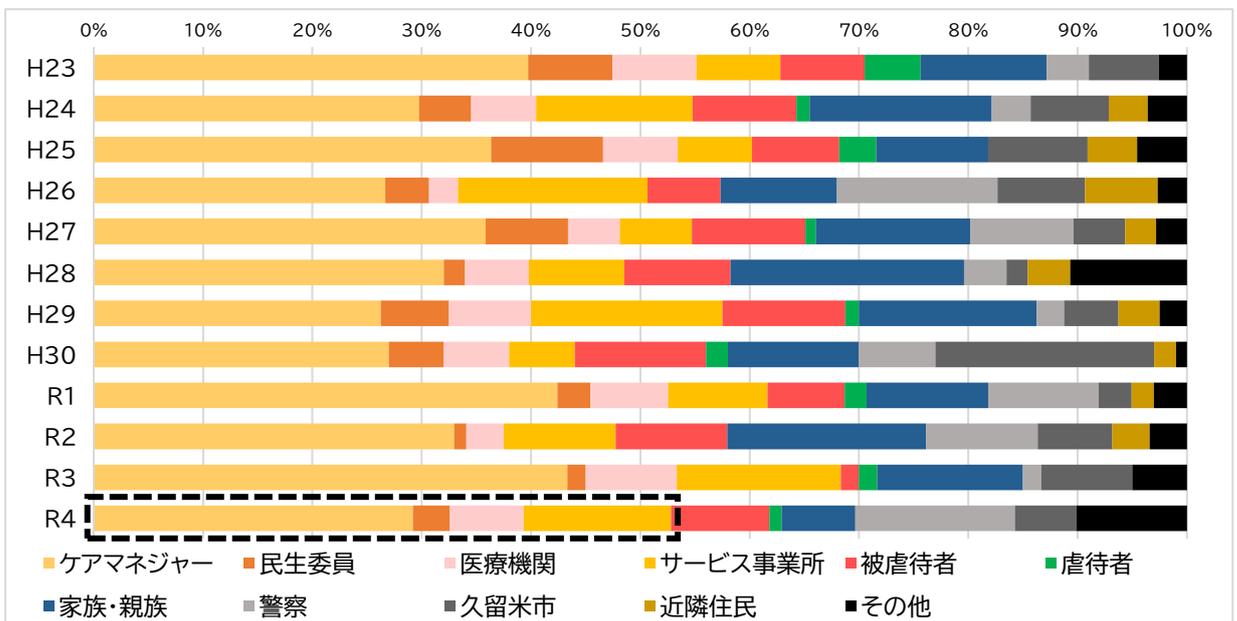
■ [図 9-2] 高齢者人口1万あたりの虐待発生率の推移

長期的には減少傾向にある。



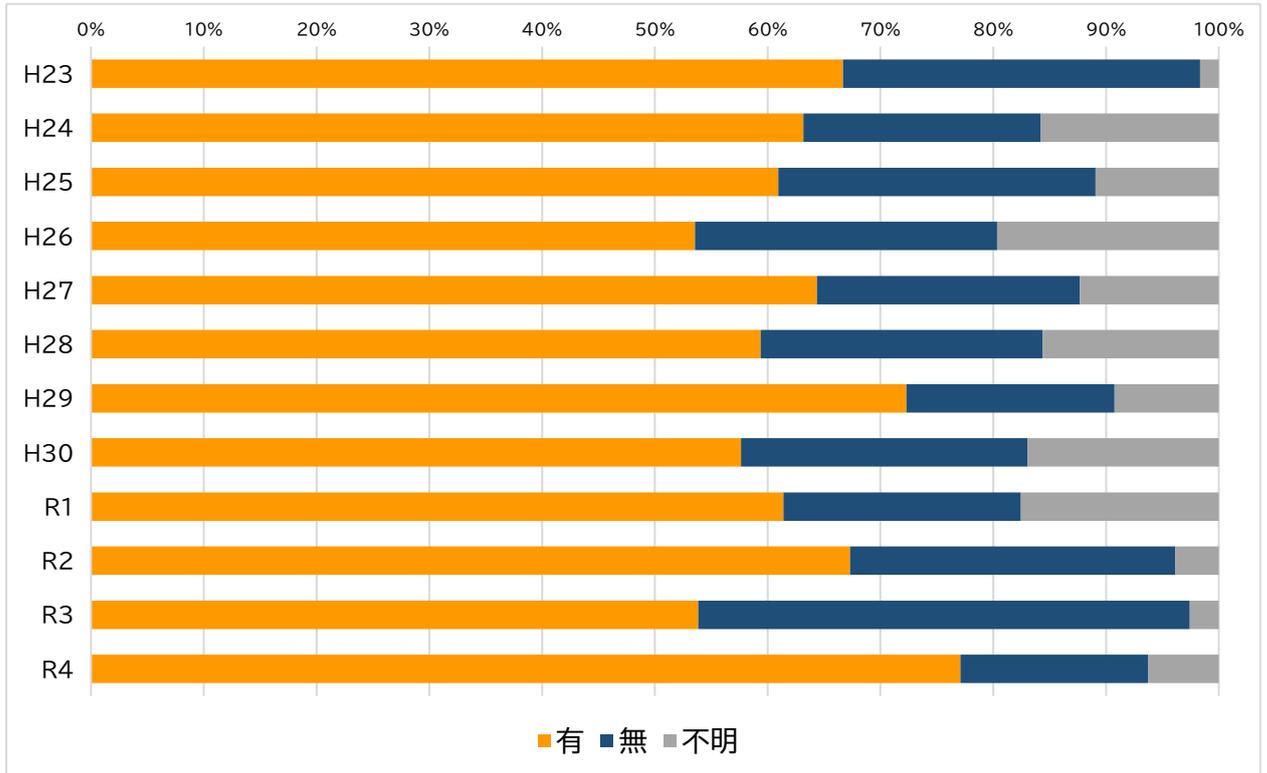
(2) [図 9-3] 経路別の相談・通報件数の割合

相談・通報の約5割が、ケアマネジャーや民生委員など地域の関係者からの通報によるものである。



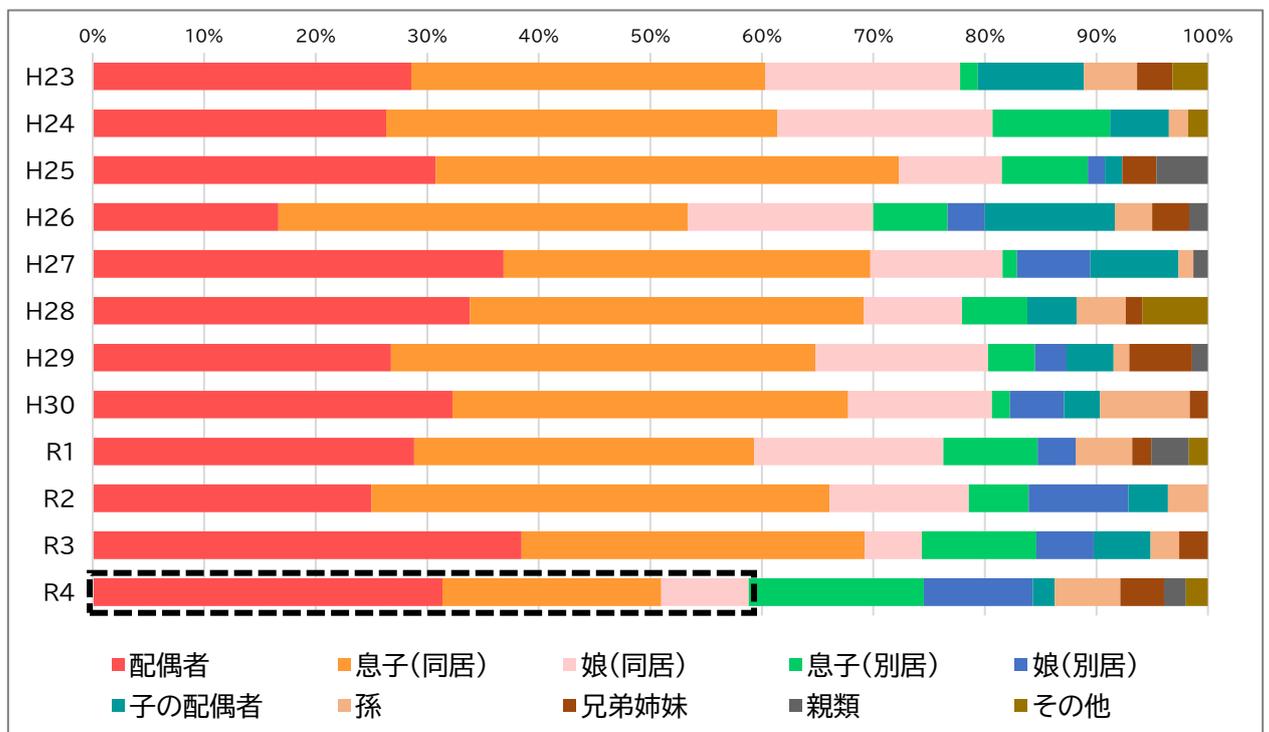
(3) [図 9-4]被虐待者の認知症の割合

被虐待者の6～7割に認知症の症状がある。



(4) [図 9-5]虐待者の割合

虐待事例の多くが同居親族によるものである。

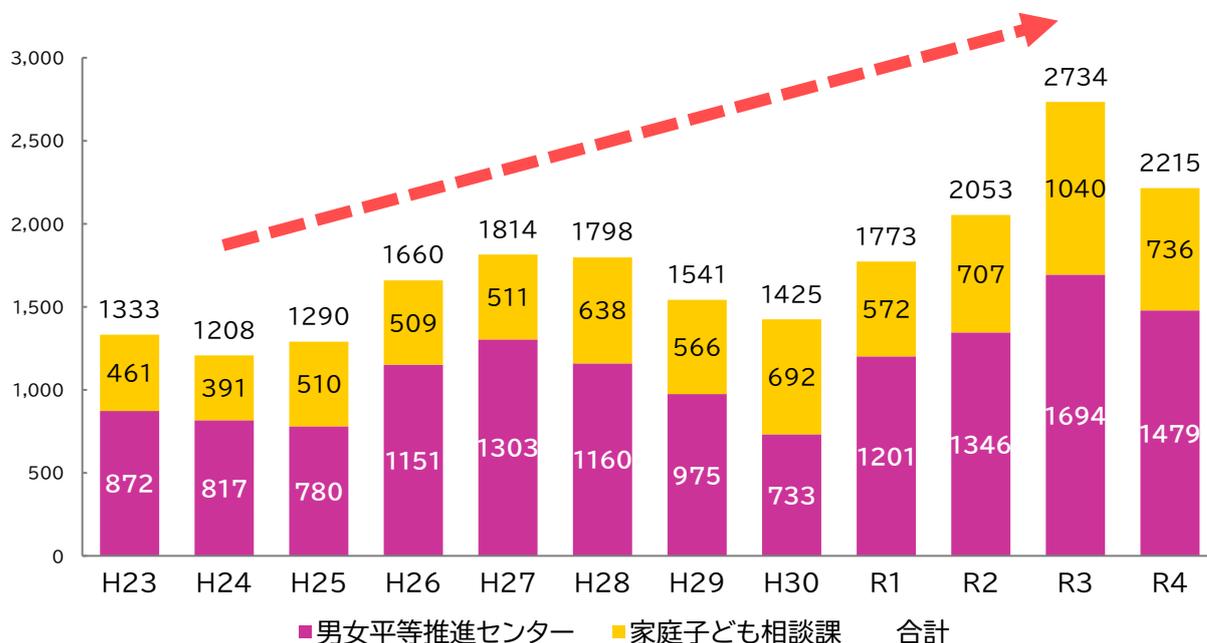


10 DVに関する状況

重点分野:犯罪・暴力の予防

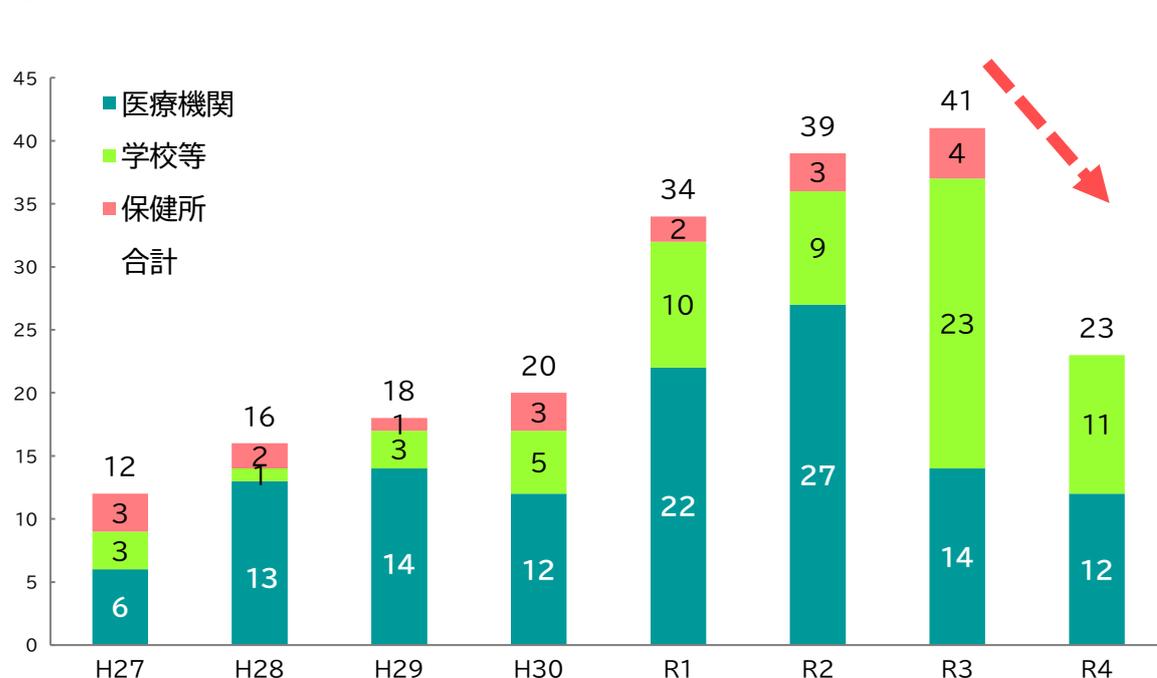
(1) [図 10-1]DV の相談件数 (男女平等推進センター、家庭子ども相談課集計)

DV の相談件数は長期的には、増加傾向にある。



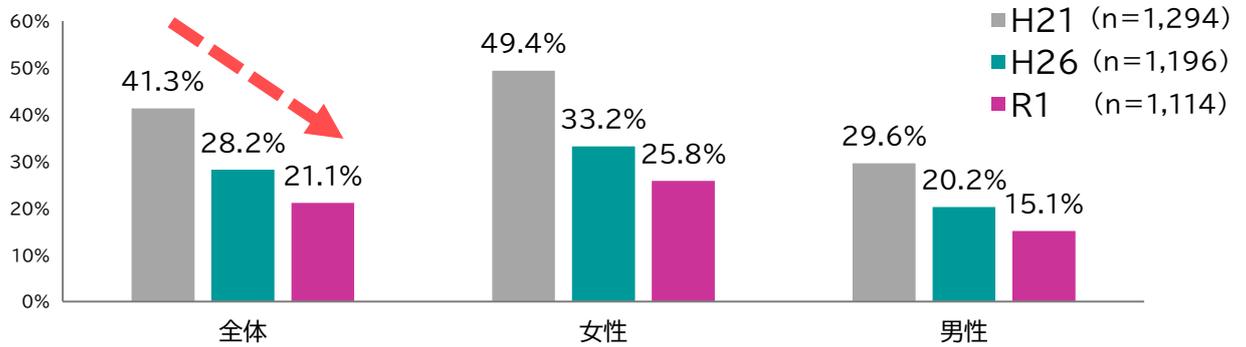
(2) [図 10-2]他の機関から相談に繋がった件数 (男女平等推進センター、家庭子ども相談課集計)

他機関からの相談件数は増加傾向にあったが、令和4年度は減少している。



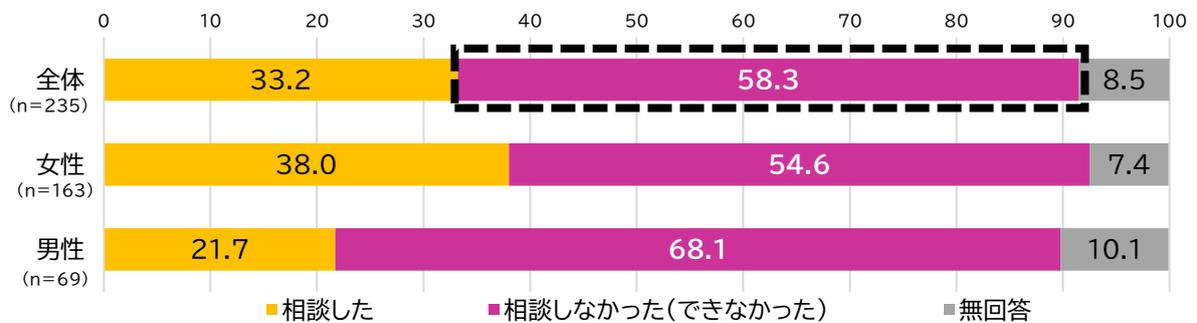
(3) [図 10-3]DV を受けた経験がある人の割合 (久留米市男女平等に関する市民意識調査)

DV を受けた経験がある人の割合は減少傾向にあるが、現在もなお、約 4 人に 1 人の女性がパートナーから暴力を受けた経験を持っている。



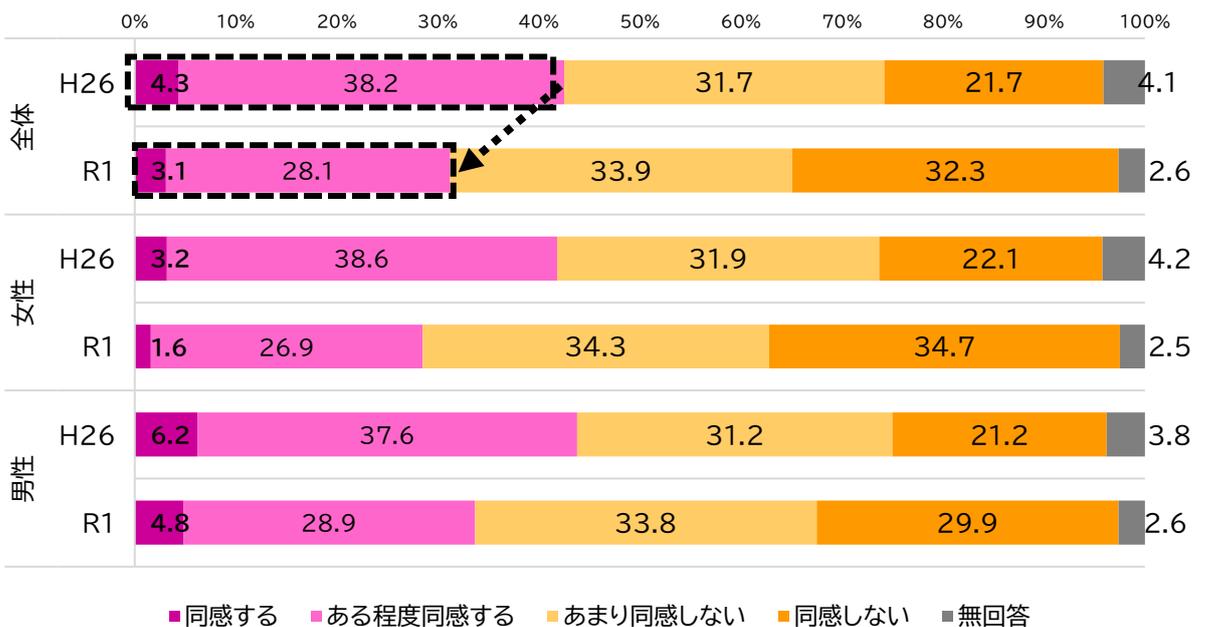
■[図 10-4]DV の被害経験の相談の有無について (久留米市男女平等に関する市民意識調査)

また、R 1 年の調査では、DV を受けた経験のある人のうち、58.3%の人が相談できていないと答えている。



(4) [図 10-5]「男は仕事、女は家庭」という考え方に関する割合 (久留米市男女平等に関する市民意識調査)

「同感する」と「ある程度同感する」を合わせた“同感する”の割合が減少している。

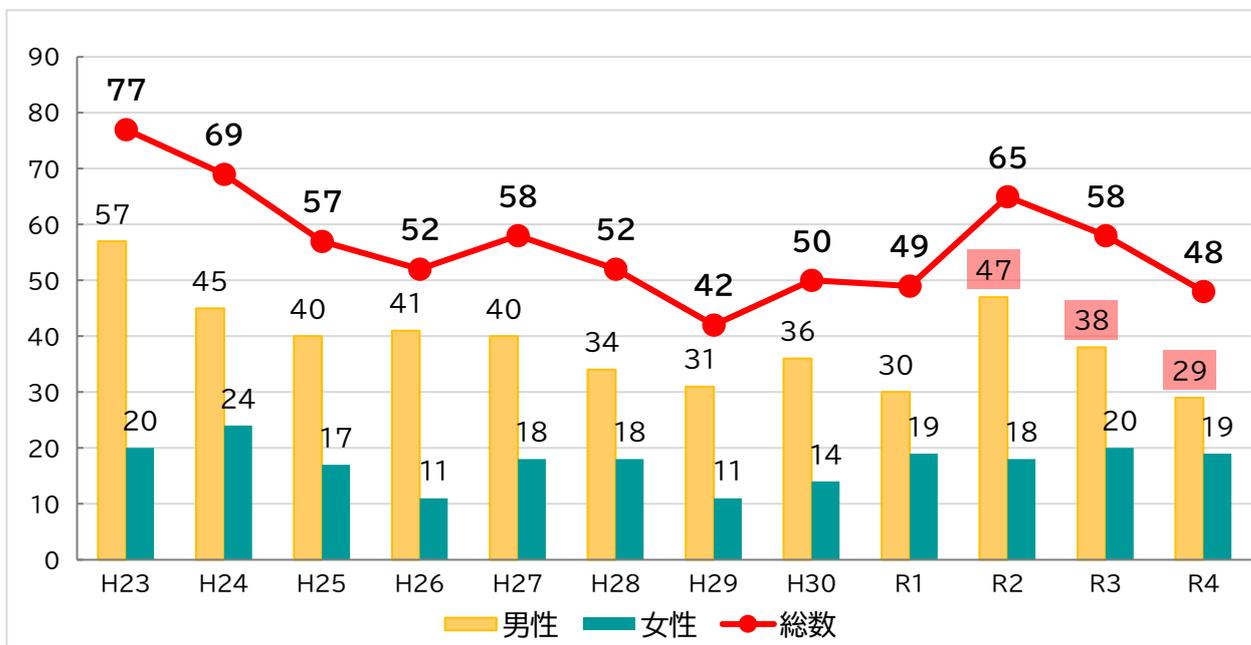


II 自殺に関する状況 (人口動態統計)

重点分野:自殺予防

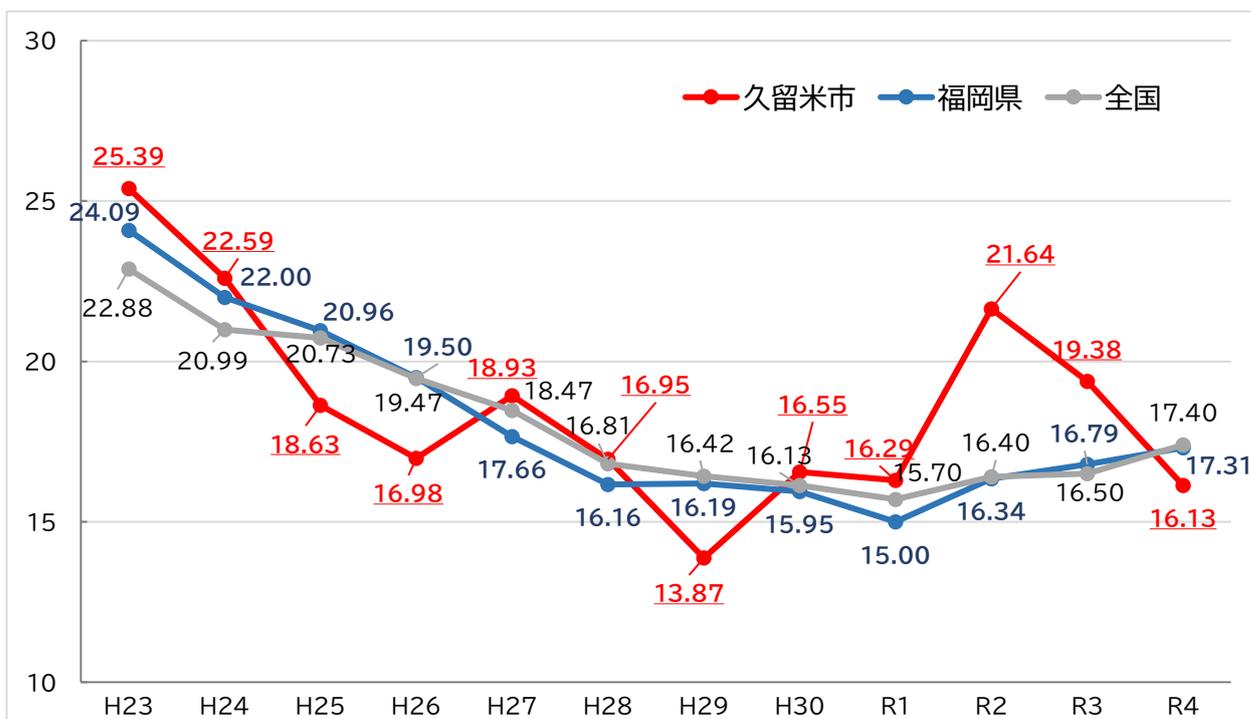
(1) [図 11-1]久留米市の自殺者数の推移

令和2年に増加した男性の自殺者数は、コロナ禍前の水準まで減少している。
 女性の自殺者数は、令和元年以降同水準で推移している。



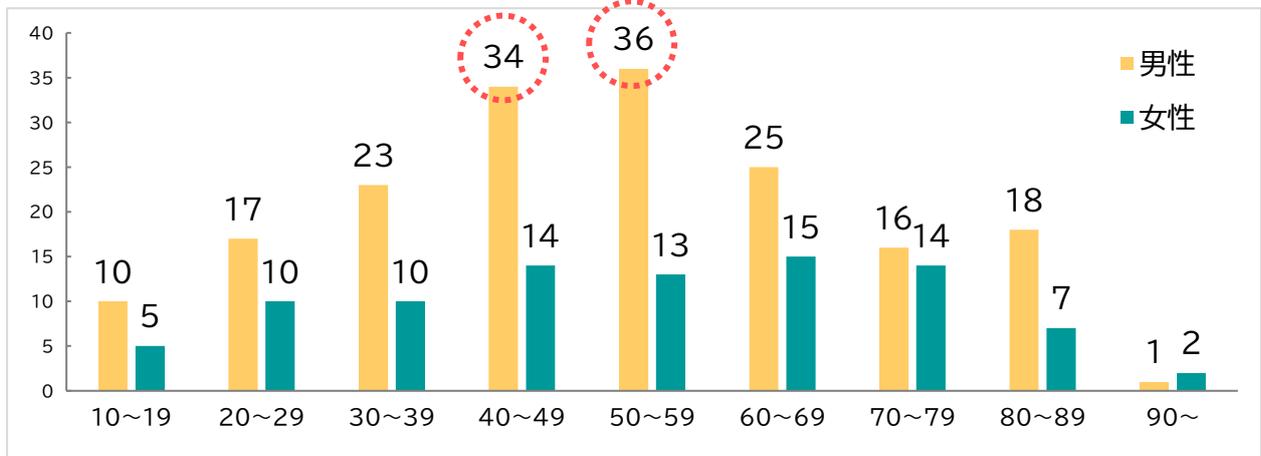
(2) [図 11-2]人口10万人当たりの自殺死亡率

人口10万人当たりの自殺者数は、令和4年に国と福岡県の値を下回った。



(3) [図 11-3]年齢・性別ごとの過去5年間の自殺者の状況 (H30-R4)

40～50 歳代の男性の自殺者数が多くなっている。



12 災害に関する状況

重点分野:防災

(1) [図 12-1]久留米市における近年の豪雨災害（気象庁、防災対策課記録等）

6年間で6回の大規模な浸水被害が発生。

数十年に一度の特別警報が7年で5回（H29年7月九州北部豪雨含む）。

	H30.7	R1.7	R1.8	R2.7	R3.8	R5.7 (耳納山観測所)
1時間 最大雨量	40.5	90.0	60.5	48.0	72.0	91.5
3時間 最大雨量		177.5	147.0	105.5		167.0
24時間 最大雨量	279.5	335.5	330.0	360.5	387.0	402.5
48時間 最大雨量	388.5	402.5	366.5	483.0	572.5	452.0
72時間 最大雨量				529.0	718.5	565.5
総雨量 (期間)	386.0 (7/5~8)	474.5 (7/18~23)	408.0 (8/26~29)	735.0 (7/5~10)	896.5 (8/11~19)	567.0 (7/7~10)
特別警報	●		●		●	●
浸水被害 (件)	床上： 431 床下：1,182	床上：89 床下：47	床上：29 床下：16	床上： 30 床下：1,088	床上：317 床下：708	床上： 902 床下：1,545
避難者数	1,270人	505人	545人	1,398人	876人	704人

※白抜きセル：観測史上最大